

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 61 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月8日(火) 入学式(学部・短大)
- 7日(月) } 新入生オリエンテーション
- 11日(金) }
- 9日(水) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 10日(木) }
- 9日(水) } 在校生身分登録(学部・短大)
- 19日(土) }
- 10日(木) } 体育実技Ⅱ種目選択届受付
(学部2年次生)
- 11日(金) }
- 12日(土) 前期授業開始
- 12日(土) }
- 19日(土) } 成績質疑応答
- 21日(月) }
- 24日(木) } 履修届受付(学部・短大)
(学部により受付日が異なる)
- 5月13日(火) } 春季健康診断
(2・3・4年次生対象)
- 22日(木) }
- 26日(月) } 卒業論文論題受付
(締切日は正午まで)
- 6月10日(火) }
- 7月5日(土) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 11日(金) }
- 7月10日(木) } 中間試験(授業平常通り)
- 16日(水) }
- 16日(水) } 前期授業最終日
- 17日(木) } 前期定期試験(前期終了科目)
(授業休講)
- 18日(金) }
- 19日(土) 夏季休暇第1日
- 19日(土) } 体育実技Ⅱ集中授業・シーズンコース
(テニスA)
- 23日(水) } (学部2年次生)
- 24日(木) } 体育実技Ⅱシーズンコース
(テニスB)
- 28日(月) } (学部2年次生)

後 期

- 9月8日(月) } 補講期間
- 13日(土) }
- 12日(金) 前期定期試験欠試届(追試申込)
受付締切

- 16日(火) 後期授業開始
- 17日(水) }
- 18日(木) } 前期定期試験成績発表及び
再試験申込受付
- 25日(木) }
- 30日(火) } 前期追・再試験(授業平常通り)
- 10月1日(水) }
- 3日(金) } 秋季健康診断(1年次生対象)
- 3日(金) }
- 4日(土) } 専攻コース指定届受付
(歴史・社会学科1年次生)
- 13日(月) }
- 14日(火) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(水) 第104回開校記念日(全学休業)
- 11月12日(水) }
- 14日(金) } 転部科試験願書受付
- 28日(金) 転部科試験
- 12月4日(木) }
- 12日(金) } 編入学試験願書受付
- 10日(水) 卒業論文受付締切(正午)
- 19日(金) 冬季休暇第1日
- 19日(金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 23日(火) }
- 22日(月) 編入学試験
- 昭和62年
- 1月8日(木) 後期授業再開
- 14日(水) 後期授業最終日
- 16日(金) }
- 27日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 28日(水) }
- 2月5日(木) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 6日(金) 卒業論文口頭試問
- 7日(土) 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 16日(月) }
- 20日(金) } 体育実技Ⅱシーズンコース
(スキーA・B)(学部2年次生)
- 19日(木) }
- 20日(金) } 成績発表及び追・再試験申込受付
(学部4年次生・短大生)
- 25日(水) }
- 3月3日(火) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
追試験(学部1・2・3年次生)
- 19日(木) 卒業者名簿発表
- 25日(水) 卒業式(学部・短大)

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(14)
3.	学 士 号	(14)
III	授業科目の履修方法	(15)
1.	一般教育科目の履修方法	(15)
2.	外国語科目の履修方法	(17)
3.	保健体育科目の履修方法	(20)
4.	基礎教育科目の履修方法	(21)
5.	専門教育科目の履修方法	(21)
6.	随意科目の履修方法	(46)
7.	再履修科目の履修方法	(46)
	※コード番号について	(47)
IV	履修科目の登録（履修届）とその作成順序	(49)
1.	履修科目の登録	(49)
2.	履修届記入上の注意	(50)
3.	履修届の作成順序	(51)
V	試験および成績評価	(53)
1.	定期試験	(53)
2.	中間試験	(53)
3.	追・再試験	(53)
4.	受験心得	(53)
5.	成績評価・単位認定	(54)
6.	試験時間	(54)
VI	進級について	(55)
VII	クラス制およびクラス主任	(56)
VIII	教職課程・資格講座	(56)
IX	事務取扱いについて	(57)
X	届書・願書について	(58)
XI	各種証明書取扱い窓口	(59)
	試験実施規程（抜萃）・進級規程・進級基準	(60)
	講 義 内 容	(65)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	28	} 130 以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 58・59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	28	} 130 以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

C. 57年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	28	} 130 以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外国語	5	10	14	
	第 2 外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	6	24	72	
	選 択		40		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科

〔社会学コース〕

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132 以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132 以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外国語	4	8	12	
	第 2 外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132 以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外国語	4	8	12	
	第 2 外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	9	36	72	
	選 択		28		
	卒業論文(必修)		8		

〔心理学コース〕

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

(心理学コース)

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	11	38	72	
	選 択		26		
	卒業論文(必修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降その研究目標に関連する適当な選択科目を履修し、4年次で提出しなければならない。提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を与える。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月26日(月)～6月10日(火) 正午まで(教務部⑥番窓口)

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙(大学売店にて販売)を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
〔提出期間に遅れたとき、又は受業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕
- (2) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日(月)～12月10日(水) 正午まで(教務部⑥番窓口)

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査され、論文の内容について口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月6日(金)

3. 学 士 号

大学に4カ年以上(7カ年をこえてはならない)在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国 文 学 科	}	文 学 士
英 米 文 学 科		
地 理 学 科		
歴 史 学 科		
社 会 学 科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科 \ 分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
英米文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
地理学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)
歴史学科	16(4)	12(3)	8(2)	36(9)
社会学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)

※（ ）内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人文分野			社会分野			自然分野		
	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」を 含む4科目 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法 2単位を含む) (2年次)	4	2科目 8単位 選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	論理学	4		地理学	4				
	歴史学 (日本・西洋)	4							
英米文学科	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」を 含む4科目 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	2科目 8単位 選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	論理学	4		地理学	4				
	歴史学 (日本・西洋)	4							
地理学科	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」を 含む3科目 12単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	3科目 12単位 選択必修	数学	4	2科目 8単位 必修
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4		経済学	4		物理学	4	
	哲学	4		社会学	4		化学	4	
	文芸学 (日本・西洋)	4		文化人類学	4		生物学	4	
歴史学科	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」を 含む4科目 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	3科目 12単位 選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4		経済学	4		地学	4	
	哲学	4		社会学	4		心理学	4	
	論理学	4		地理学	4		人類学	4	
	文芸学 (日本・西洋)	4							
社会学科	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」を 含む3科目 12単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	3科目 12単位 選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4		政治学	4		生物学	4	
	論理学	4		経済学	4		地学	4	
	歴史学 (日本・西洋)	4		地理学	4		人類学	4	

教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と、入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学 科		国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1	年次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
2	年次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
3	年次	—	—	1科目	2	—	—	—	—	—	—

第2外国語

学 科		国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1	年次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		} 1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは英会話Iまたは英語LLIに代替できる。 (ただし英米文学科は英会話Iに代替できない)	LLI (ランゲージ・ラボラトリー)
英 語 1R	2			
英 会 話 I	2			
英 語 LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	} 5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とすること。	
ド イ ツ 語 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
中 国 語 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A I	2		中 国 語 2 A I	2	講 読
英 語 2 A II	2		中 国 語 2 A II	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A I	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A I	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A II	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A II	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A I	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A I	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A II	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A II	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達的能力を発展させ、応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 3 A	2	講 読	3 Aを1科目必修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、7月初旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度以降入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位〈体育実技Ⅰ〉、2年次1科目1単位〈体育実技Ⅱ〉の3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰは玉川校舎で授業を行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※体育実技Ⅰについての種目の説明等で、1年次生は最初の授業・「再履修クラス」を履修する場合は教務部にて、それぞれ配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 前期(夏季休暇中)または後期(冬季休暇中)に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期(夏季休暇中)または後期(冬季休暇中)に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コース及び集中授業等の申込み方法については、教務部より配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※実技についての種目の説明等で、1年次生は最初の授業・「再履修クラス」を履修する場合は教務部にて、それぞれ配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉概論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB(会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB(会話)	2						

(注意) 「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科		地理学科	歴史学科	社会学科					
		58年度以降入学生適用	57年度以前入学生適用			57年度以降入学生適用			56年度以前入学生適用		
						社	福	心	社	福	心
必修科目	36(12)	28(7)	24(6)	16(6)	32(8)	48(12)	48(12)	28(8)	32(8)	36(9)	38(11)
選択科目	28	36	40	48	32	16	16	36	32	28	26
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※ () 内の数字は科目数。

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国語学演習Ⅰ	2	1科目2単位選択必修 原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること
			国文学演習Ⅰ(上代)	2	
2 年 次 必 修			国文学演習Ⅰ(中古)	2	
国語学概論	4		国文学演習Ⅰ(中世)	2	
国文学概論	4		国文学演習Ⅰ(近世)	2	
国文学講読Ⅱ	2		国文学演習Ⅰ(近代)	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
			国文学研究	4	
3 年 次 必 修			国文学史(上代)	4	1科目4単位選択必修 3年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する
国文学史(上代)	4	1科目 4単位 選択必修	国文学史(中古)	4	
国文学史(中古)	4		国文学史(中世)	4	
国文学史(中世)	4		国文学史(近世)	4	
国文学史(近世)	4		国文学史(近代)	4	
国文学史(近代)	4		国語学演習Ⅱ	2	1科目2単位選択必修 卒業論文に関連のあ る分野の演習を履修 すること
国語学研究	4	国文学演習Ⅱ	2		
国文学講読Ⅲ	2		卒業論文	8	14頁参照

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

選択科目 (28単位以上)(2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 学 史 特 講 Ⅱ	4	
	中 古 文 学	4		国 学 史 特 講 Ⅲ	4	
	中 世 文 学	4		国 学 史 特 講 Ⅳ	4	休講
	近 世 文 学	4		国 学 史 (上代)	4	} 選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること
	近 代 文 学	4		国 学 史 (中古)	4	
	国 語 史	4	} 休講 隔年開講	国 学 史 (中世)	4	
	国 語 学 史	4		国 学 史 (近世)	4	
	文 学 概 論	4		国 学 史 (近代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	} 2年次生のみ履修すること
	有 職 故 実	4	休講	近 代 文 学 講 読	2	
	国 学 史 特 講 Ⅰ	4				

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 文 化 史 Ⅰ	4	} 休講 隔年開講
	中国文学演習	4		日 本 文 化 史 Ⅱ	4	
	中国文学概論	4		現 代 美 術	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 Ⅰ	4	
	英 米 文 化	4	旧 外 国 文 学	書 道 実 習 Ⅱ	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 Ⅰ	4	古代, 中世	美 術 史	2	
	日 本 史 概 説 Ⅱ	4	近世, 近代	書 道 史	2	
	日 本 民 俗 学	4		編 集 実 務	2	

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上, 「B群」より2科目以上進んで履修されたい。

英米文学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		卒 業 論 文	8	14頁参照
英 作 文 I	4		2 年次または 3 年次必修		
3 年 次 必 修			文学史 (英文学史Ⅰ) (英文学史Ⅱ) (米文学史)	8	2年次1科目 3年次1科目 計2科目選択 必修
音 声 学	4				
英 語 史	4				
シェイクスピア	4				

※「文学史」は2科目選択必修とし、残り1科目を専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用 (32単位)

2 年 次 必 修			2 年次または 3 年次必修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		文学史 (英文学史Ⅰ) (英文学史Ⅱ) (米文学史)	4	1科目選 択必修
3 年 次 必 修					
音 声 学	4	旧英語学研究	3 年次または 4 年次必修		
英 語 史	4		批 評 論 研 究	4	
4 年 次 必 修			シェイクスピア	4	
卒 業 論 文	8	14頁参照			

選択科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 史 I	4	2・3・4	※イ 必修とした科目以外を履修すること	英 文 学 演 習 I (中世)	4	3・4	
英 文 学 史 II	4	2・3・4		英 文 学 演 習 II (英文学16, 17c.)	4	3・4	※ホ
米 文 学 史	4	2・3・4		英 文 学 演 習 IV (英文学18c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 I (英文学16, 17c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 V (詩19, 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II (英文学18c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI (小説I 19c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 III (詩19, 20c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VII (小説II 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV (小説I 19c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VIII (批評19, 20c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 V (小説II 20c.)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 I (詩)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI (批評19, 20c.)	4	3・4		米 文 学 演 習 II (小説I)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I (詩)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III (小説II)	4	3・4	
米 文 学 特 講 II (小説I)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 IV (小説III)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III (小説II)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 V (批評)	4	3・4	
米 文 学 特 講 IV (小説III)	4	2・3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	※へ
米 文 学 特 講 V (批評)	4	3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	旧英米 時文研究
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4	※ロ	商 業 英 語	4	3・4	
英 作 文 I	4	3・4	※ハ	ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語学)	4	3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	旧外国文学
英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	休講 } 隔年開講
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英作文II)	4	3・4	※ニ	現 代 美 術	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4					

※イ 57年度以前入学生適用

※ロ 57年度以前入学生で「英文学特講VII(演劇19, 20c.)」・「米文学特講VI(演劇)」をいずれか修得した者は、「英米演劇特講」を履修できない。

※ハ 57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習(英作文)」

※ニ 58年度以降入学生適用

※ホ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅱ(英文学16c.)」・「英文学演習Ⅲ(英文学17c.)」をいずれか修得した者は、「英文学演習Ⅱ(英文学16, 17c.)」を履修できない。

※ヘ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅸ(演劇19, 20c.)」・「米文学演習Ⅵ(演劇)」をいずれか修得した者は、「英米演劇演習」を履修できない。

(注意) 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇演習科目のとりかた

I(a) 2, 3, 4年次に演習1科目(4単位)ずつ、あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。

(b) 2年次で履修しうる演習科目は1科目とする。

(c) 3年次で履修しうる演習科目は3科目以内とする。

(d) 4年次で履修しうる演習科目は2科目以内とする。

II(a) 各演習科目とも先着約50名で締切る。なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。

(b) 担任の先生に届出る日・時・場所については教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

(c) 57年度以前入学生で(旧)「英米語学演習(英作文)」の履修希望者は、「英作文Ⅰ」を履修すること。なお、その場合「英作文Ⅰ」の4講座のいずれかひとつを選択し、担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。捺印の日時は、他の演習科目と同じとする。

地理学科

必修科目(24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (14頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検(Ⅰ・Ⅱ)」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選択科目（48単位以上）

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4	旧 地図学概説	外 国 地 誌 II	4	休講
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4	休講	計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

（注意） 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎測量士補資格について

地理学科の学生で、地図学、空中写真判読法及び測量学、自然地理学実習、地理学演習を修得し、さらに地形学、地質学、地球物理学、応用地理学 I、II のうち 2 科目を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後 1 年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届出ること）

必修科目（40単位）（2年次以降の履修科目）

○日本史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8単 位選択必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替えできる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		考古学概説Ⅱ（外 国）	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8単 位選択必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替えできる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		卒 業 論 文	8	14頁参照

○東洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ（近 近 代 世）	4	
東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
東洋史概説Ⅱ（近 近 代 世）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 代 世）	4	
演 習 Ⅰ（東洋史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替できる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（東洋史）	4		考古学概説Ⅱ（外 国）	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ（近 近 代 世）	4	
東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
東洋史概説Ⅱ（近 近 代 世）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 代 世）	4	
演 習 Ⅰ（東洋史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替できる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（東洋史）	4		卒 業 論 文	8	14頁参照

○西洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（西洋史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替できる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（西洋史）	4		考古学概説Ⅱ（外 国）	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（西洋史）	4	演習Ⅰ（考 古学）で代 替できる	考古学概説Ⅰ（日 本）	4	
演 習 Ⅱ（西洋史）	4		卒 業 論 文	8	14頁参照

○考古学専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単位	備 考	授 業 科 目	単位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 2科目8 単位選択 必修
考 古 学 史	4		日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
考古学概説Ⅰ（日 本）	4		東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
考古学概説Ⅱ（外 国）	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（考古学）	4	他の専攻の 演習Ⅰで代 替えできる	西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
演 習 Ⅱ（考古学）	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単位	備 考	授 業 科 目	単位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	} 3科目12 単位選択 必修
考古学概説Ⅰ（日 本）	4		日本史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
演 習 Ⅰ（考古学）	4	他の専攻の 演習Ⅰで代 替えできる	東洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
演 習 Ⅱ（考古学）	4		東洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
日 本 史 学 史	4	} 1科目4 単位選択 必修	西洋史概説Ⅰ（古 中 代 世）	4	
東 洋 史 学 史	4		西洋史概説Ⅱ（近 近 世 代）	4	
西 洋 史 学 史	4		卒 業 論 文	8	14頁参照

選択科目（32単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4	休 講	東 洋 史 特 講 I (古 代)	4	旧 休 東 洋 史 特 講 VII
日 本 史 各 説 II	4	休 講	東 洋 史 特 講 II (古 代)	4	
日 本 史 各 説 III	4		東 洋 史 特 講 III (古 代)	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東 洋 史 特 講 IV (中 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 I (古 代)	4	旧 東 洋 史 各 説 II	東 洋 史 特 講 V (中 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 II (古 代)	4	休 講	東 洋 史 特 講 VI (中 世)	4	旧 休 東 洋 史 特 講 III・VI
東 洋 史 各 説 III (中 世)	4	旧 休 東 洋 史 各 説 I	東 洋 史 特 講 VII (近 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 IV (中 世)	4	休 講	東 洋 史 特 講 VIII (近 世)	4	
東 洋 史 各 説 V (近 世)	4	旧 東 洋 史 各 説 III	東 洋 史 特 講 IX (近 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 VI (近 世)	4	休 講	東 洋 史 特 講 X (近 現 代)	4	休 講
東 洋 史 各 説 VII (近 現 代)	4		東 洋 史 特 講 XI (近 現 代)	4	旧 東 洋 史 特 講 IV
東 洋 史 各 説 VIII (近 現 代)	4		東 洋 史 特 講 XII (近 現 代)	4	旧 東 洋 史 特 講 II
東 洋 史 各 説 IX (周 辺 史)	4	旧 東 洋 史 各 説 IV	東 洋 史 特 講 XIII (周 辺 史)	4	旧 休 東 洋 史 特 講 V
東 洋 史 各 説 X (周 辺 史)	4	旧 休 東 洋 史 各 説 II	東 洋 史 特 講 XIV (周 辺 史)	4	旧 東 洋 史 特 講 I
西 洋 史 各 説 I	4	休 講	東 洋 史 特 講 XV (周 辺 史)	4	
西 洋 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4		西 洋 史 特 講 II	4	
西 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 III	4	休 講
考 古 学 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休 講
考 古 学 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 V	4	
考 古 学 各 説 III	4	休 講	西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4	休 講	西 洋 各 国 史 II	4	
日 本 史 特 講 I (古 代)	4		西 洋 各 国 史 III	4	
日 本 史 特 講 II (中 世)	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日 本 史 特 講 III (中 世)	4		考 古 学 特 講 I	4	
日 本 史 特 講 IV (近 世)	4		考 古 学 特 講 II	4	休 講
日 本 史 特 講 V (近 世)	4	休 講	考 古 学 特 講 III	4	} 隔 年 開 講
日 本 史 特 講 VI (近 代)	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日 本 史 特 講 VII (近 代)	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4	
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4	休講 } I 隔年開講 とIIIは	哲 学 史	4	
日 本 仏 教 史 II	4		歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 III	4		仏 教 美 術	4	
日 本 文 化 史 I	4	休講 } 隔年開講	西 域 美 術 史	4	
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4	
西 洋 文 化 史 I	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
西 洋 文 化 史 II	4		演 習 I	4	}
西 洋 文 化 史 III	4	休 講	演 習 II	4	
考 古 学 実 習 I (写 真)	4		日 本 史 概 説 I (古 代 ・ 中 世)	4	
考 古 学 実 習 II (記 録)	4		日 本 史 概 説 II (近 世 ・ 近 代)	4	
考 古 学 実 習 III (測 量)	4		東 洋 史 概 説 I (古 代 ・ 中 世)	4	
考 古 学 実 習 IV (調 査)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世 ・ 近 代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代 ・ 中 世)	4	
有 職 故 実	4	休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世 ・ 近 代)	4	
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4	
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4	
歴 史 地 理 学	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※55年度以前入学生は「考古学概説Ⅱ(外国)」を履修することはできない。

〔名称変更科目〕

○新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

○成績表は、59年度発表分では旧名称で、60年度からは新名称で打出される。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
東洋史特講Ⅰ(古 代)	東洋史特講Ⅶ(古代史)	東洋史各説Ⅰ(古 代)	東洋史各説Ⅱ
東洋史特講Ⅵ(中 世)	東洋史特講Ⅲ(中世史) 東洋史特講Ⅵ(中世史)	東洋史各説Ⅲ(中 世)	東洋史各説Ⅰ
東洋史特講Ⅺ(近現代)	東洋史特講Ⅳ (近代・現代史)	東洋史各説Ⅴ(近 世)	東洋史各説Ⅲ
東洋史特講Ⅻ(近現代)	東洋史特講Ⅱ (近世・近代史)	東洋史各説Ⅸ(周辺史)	東洋史各説Ⅳ
東洋史特講Ⅼ(周辺史)	東洋史特講Ⅴ (西・中央アジア史)	東洋史各説Ⅹ(周辺史)	東洋史各説Ⅱ
東洋史特講Ⅽ(周辺史)	東洋史特講Ⅰ (中国周辺史)		

※Ⅰ (59年度光薫担当分)

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届出ること）

(1) 社会学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2年次必修			2・3・4年次必修			
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20 単位選択 必修	
社会学史	4		産業社会学	4		
社会学方法論	4		都市社会学	4		
3年次必修			農村社会学	4		休講
社会調査	4		家族社会学	4		
社会調査実習	4		法社会学	4		5科目20 単位選択 必修
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4		
4年次必修			社会心理学	4		
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4		
卒業論文	8	14頁参照	外書講読Ⅰ	4		
			外書講読Ⅱ	4	休講	
			社会学特講Ⅰ	4		
			社会学特講Ⅱ	4		
			社会学特講Ⅲ	4	休講	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	休講 (注)	社会学原論	4	
産業社会学	4		図書館学Ⅰ	4	
都市社会学	4		図書館学Ⅱ	4	
農村社会学	4		社会福祉方法総論	4	
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
宗教社会学	4		老人福祉論	4	
社会心理学	4		児童福祉論	4	
社会病理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
社会学特講Ⅰ	4		グループ・ダイナミックス	4	
社会学特講Ⅱ	4		民 法	4	
社会学特講Ⅲ	4	休講 休講	労働法	4	
			行政法	4	
			経済原論	4	
			社会政策	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (40単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		演 習 I	4	社会
社 会 学 原 論	4		4 年 次 必 修		
社 会 統 計 学	4		社 会 政 策	4	
宗 教 社 会 学	4		演 習 II	4	社会
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	14頁参照
社 会 調 査	4				

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用 (32単位以上)

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		労働法	4	
マスコミュニケーション	4		経済原論	4	
産業社会学	4		社会学特講Ⅰ	4	旧社会学特講
都市社会学	4		社会学特講Ⅱ	4	休講
農村社会学	4	休講	社会学特講Ⅲ	4	休講
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
社会心理学	4		老人福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		児童福祉論	4	
外書講読Ⅱ	4		地域福祉論	4	
2・3・4年次選択			基礎心理学Ⅰ	4	
図書館学Ⅰ	4		産業心理学	4	
図書館学Ⅱ	4		社会福祉方法総論	4	
グループ・ダイナミクス	4	旧 集団理論	3・4年次選択		
行政法	4		社会病理学	4	
民法	4		社会調査実習	4	旧 社会調査実習Ⅰ

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会 保 障 概 論	4		A 群	公 的 扶 助 論	4	A群とB群より、それぞれ3科目ずつ取得、合計6科目24単位選択必修
社会 福 祉 法 制	4			障 害 福 祉 論	4	
社会福祉方法総論	4			老 人 福 祉 論	4	
3 年 次 必 修				児 童 福 祉 論	4	
社会福祉実習Ⅰ	4			母 子 福 祉 論	4	
演 習 Ⅰ	4	福祉		医 療 社 会 事 業 論	4	
4 年 次 必 修			B 群	地 域 福 祉 論	4	
演 習 Ⅱ	4	福祉		社会福祉事業発達史	4	
卒 業 論 文	8	14頁参照		社会福祉管理運営論	4	
				福 祉 外 書 講 読	4	
				リハビリテーション論	4	
				社会福祉調査論	4	

※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用 (16単位以上)

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	(注)	宗教社会学	4	
障害福祉論	4		産業社会学	4	
老人福祉論	4		都市社会学	4	
児童福祉論	4		農村社会学	4	休講
母子福祉論	4		家族社会学	4	
医療社会事業論	4		法社会学	4	
地域福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉事業発達史	4		障害児教育原論	4	旧 異常児教育原論
社会福祉管理運営論	4		障害児教育方法論	4	旧 異常児教育方法論
福祉外書講読	4		障害児病理	4	旧 異常児病理解休講
リハビリテーション論	4		障害児心理	4	旧 異常児心理休講
社会福祉調査論	4		図書館学Ⅰ	4	
ケースワーク論	4		図書館学Ⅱ	4	
グループワーク論	4	社会政策	4		
海外社会福祉論	4	青少年問題研究	4		
社会福祉学特講Ⅰ	4	行政法	4		
社会福祉学特講Ⅱ	4	労働法	4		
社会福祉学特講Ⅲ	4	民法	4		
基礎心理学Ⅰ	4	経済原論	4		
基礎心理学Ⅱ	4	4年次選択			
社会心理学	4	社会福祉実習Ⅱ	4		
グループ・ダイナミックス	4				

(注意) ※ 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 「社会福祉実習Ⅱ」を履修する者は「社会福祉実習Ⅰ」取得者に限る。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (44単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社 会 福 祉 実 習 I	4	旧 社会福祉 実習
社 会 学 原 論	4		演 習 I	4	福祉
社 会 福 祉 法 制	4		4 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			社 会 政 策	4	
社 会 調 査	4		演 習 II	4	福祉
社 会 福 祉 事 業 発 達 史	4	旧社会福祉 事業史	卒 業 論 文	8	14頁参照

(注意) ※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用 (28単位以上)

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障概論	4	旧 社会保障論	グループ・ダイナミックス	4	
児童福祉論	4		宗教社会学	4	
老人福祉論	4		産業社会学	4	
地域福祉論	4		都市社会学	4	
ケースワーク論	4	旧 ケース・ワーク論	農村社会学	4	休講
グループワーク論	4	旧 グループ・ワーク	法社会学	4	
基礎心理学Ⅱ	4	旧 精神発達学	図書館学Ⅰ	4	
社会心理学	4		図書館学Ⅱ	4	
家族社会学	4		民法	4	
障害児教育原論	4	旧 異常児教育原論	経済原論	4	
2・3・4年次選択			行政法	4	
公的扶助論	4		労働法	4	
母子福祉論	4		青少年問題研究	4	
医療社会事業論	4	旧 医療社会事業	障害児病理	4	旧異常児病理休講
リハビリテーション論	4				
福祉外書講読	4	旧 外書講読Ⅲ	障害児心理	4	旧異常児心理休講
海外社会福祉論	4		障害福祉論	4	
社会福祉方法総論	4		3・4年次選択		
社会福祉管理運営論	4		障害児教育方法論	4	旧異常児教育方法論
社会福祉学特講Ⅰ	4	旧 社会福祉特講Ⅰ	社会病理学	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4	旧 社会福祉特講Ⅱ			
社会福祉学特講Ⅲ	4	旧 社会福祉特講Ⅲ			
基礎心理学Ⅰ	4				

(3) 心理学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (36単位)

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
心理学史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	1科目2単位選択必修 休講
心理統計学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基礎心理学Ⅰ	4	1科目4単位選択必修 休講	心理学研究Ⅵ(実習)	2	1科目4単位選択必修 2年次でまたは1科目履修した科目履修をこ
基礎心理学Ⅱ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		基礎心理学Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅳ	4		基礎心理学Ⅲ休講	4	
基礎心理学Ⅴ	4		基礎心理学Ⅳ	4	
3年次必修			基礎心理学Ⅴ	4	
心理学研究法	4		4年次必修		
心理学研究Ⅰ(実習)	2	}	演習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒業論文	8	14頁参照

(注意) 基礎心理学Ⅰ～Ⅴの内容については講義内容欄を参照のこと。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（36単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	心修として履修した科目以外を履修すること	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ休講	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	休講
心理学研究Ⅰ（実習）	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること 休講	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ（実習）	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ（実習）	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ（実習）	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅴ（実習）	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ（実習）	2		社会福祉方法総論	4	
生理心理学	4		障害福祉論	4	
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミックス	4		民法	4	
カウンセリング	4		経済原論	4	
心理検査法	4		行政法	4	
禅心理学	4		労働法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

（注意）2年次における基礎心理学Ⅰ～Ⅴの選択科目としての履修は、3科目以内とする。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (46単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学 I	4	旧 人格心理 学	心理学研究 IV (実習)	2	旧 心理学 実験演習 (上級) 1科目2 単位 選択必修
グループ・ダイナミックス	4	旧 集団理論	心理学研究 V (実習) 休講	2	
精神医学	4		心理学研究 VI (実習)	2	
心理学実験 (実習)	2	旧 心理学実 験演習 (初 級)	心理学特講 I	4	旧 臨床心理 学 II (方法)
			心理統計学	4	旧 精神測定 法
3 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
基礎心理学 III 休講	4	旧 学習行動 理論	心理検査法	2	旧 臨床実習
基礎心理学 V	4	旧 臨床心理 学 I (理論)	演 習	4	
心理学研究 I (実習)	2		卒 業 論 文	8	14頁参照
心理学研究 II (実習)	2				
心理学研究 III (実習)	2				

※ 「心理学実験演習 (上級)」を既に修得している場合は、成績表には「心理学研究 I (実習)」として記載する。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用 (26単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単位	備 考	授 業 科 目	単位	備 考
基 礎 心 理 学 II	4	旧 精神発達 学	精 神 病 理 学	4	休講
基 礎 心 理 学 IV	4	旧 社会心理 学	心 身 医 学	4	旧 精神身体 医学 休講
心理学研究 I (実習)	2	※3・4 年次選択 旧 心理 学実験演 習(上級) 3年次で 必修とし た科目履 修を 外すこと	宗 教 社 会 学	4	
心理学研究 II (実習)	2		産 業 社 会 学	4	
心理学研究 III (実習)	2		家 族 社 会 学	4	
心理学研究 IV (実習)	2		社 会 病 理 学	4	
心理学研究 V (実習) 休講	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究 VI (実習)	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
生 理 心 理 学	4	旧 精神生理 学	障 害 福 祉 論	4	
児 童 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		児 童 福 祉 論	4	
カ ウ ン セ リ ン グ	4		行 政 法	4	
禅 心 理 学	4		民 法	4	
心 理 学 特 講 II	4		労 働 法	4	
心 理 学 特 講 III	4		経 済 原 論	4	

※ 「心理学実験演習(上級)」を既に修得した者は、「心理学研究 I (実習)」は履修できない。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが卒業に必要な単位に含めることはできない。なお、日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 会 話 II	2		宗教学特講 I, II, III	4	
ド イ ツ 語 F	2		哲 学 特 講 I, II	4	
フ ラ ン ス 語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
ス ペ イ ン 語 F	2		日 本 宗 教 文 化 史	4	
ロ シ ア 語 F	2		民 衆 宗 教 成 立 史	4	
日 本 語 F	2	(初級・中級)	歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
英 語 LL II	2		日 本 民 俗 学	4	国文, 歴史学科を除く
ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)	美 術 史 概 説	4	国文, 歴史学科を除く
フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)	東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
中 国 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 文 化 史	4	地理, 社会学科のみ
ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)			

※ 歴史哲学は歴史思想史の名称変更

※ 民衆宗教成立史は民衆仏教成立史の名称変更

7. 再履修科目の履修方法

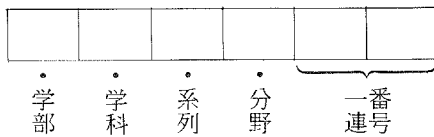
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語（英米文学科の3Aは除く）・体育実技Ⅰ（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部，学科番号は「学生番号について」での説明のとおりである。

(c) 系列，分野区分について

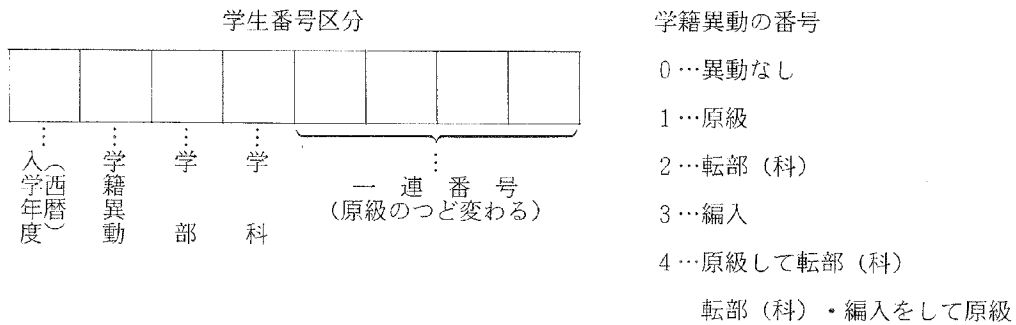
授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必 修 科 目		1, 2, 3
選 択 科 目		5, 6, 7, 8
随 意 科 目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3, 4, 5, 6, 7, 8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変らない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので、正確に覚えておくこと。

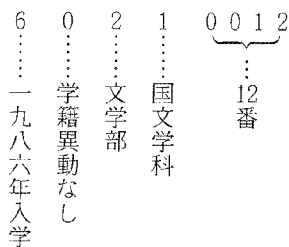
学生番号のみかた



学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1		法 学 部	4	
禪 学 科		1	法 律 学 科		1
仏 教 学 科		2	政 治 学 科		2
文 学 部	2		経 営 学 部	5	
国 文 学 科		1	経 営 学 科		1
英 米 文 学 科		2	短 期 大 学	8	
地 理 学 科		3	国 文 科		1
歴 史 学 科		4	英 文 科		2
社 会 学 科		5	放 射 線 科		3
経 済 学 部	3				
経 済 学 科		1			
商 学 科		2			

(例)



(1986年度入学・文学部国文学科12番)

IV 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次、所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表の通りとする。

	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 外国人留学生を対象とする随意科目「日本語F」は、1年次生より履修することができ、上記表の制限外とする。

ハ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ニ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口で相談すること）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 (例)

月 曜 日				
	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
一 時 限	ド イ ツ 語 1 G	212201	百 済	879
	保健体育理論前	214201	長 浜	993
二 時 限	保健体育理論後	214201		622
	三 時 限	宗 教 学 I	210101	平井俊
四 時 限		論 理 学	210203	国 嶋
	五 時 限	自 然 科 学 概 論	210401	宇和川

正 しい 記 入 例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
(1)	1		ド イ ツ 語 1 G	212201	百 済	879
	2		保健体育理論前	214201	長 浜	993
	3		宗 教 学 I	210101	平井俊	735
	4	○	論 理 学	210203	国 嶋	306
	5		自 然 科 学 概 論	210401	宇和川	104

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、心ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード，担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合（例，0と6・1と7）
 - ニ. その他，不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は，時間表に載っている，科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において，必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し，紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

（国文学科）

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目（適 用）	科 目 数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計4科目選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	4
1年次履修制限科目数			15

（英米文学科）

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目（適 用）	科 目 数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修 社会分野・開講科目の中から2科目を選択必修 自然分野・開講科目の中から1科目を選択必修	2 2 1
1年次履修制限科目数			15

(地理学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(歴史学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(社会学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。

ロ. 試験を受験できる科目は、正規の手続きを経て履修登録した授業科目であること。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担任名・主題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじた上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記入し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

1, 2, 3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は、追、再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追、再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日、時、試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部、学科、学生番号、氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意をすること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意をすること。
 - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
 なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間(前期・後期とも)		追(再)試験実施時間(前期)	追(再)試験実施時間(後期)
1 時限 9 : 30～10 : 30	4 時限 14 : 30～15 : 30	1 時限 16 : 10～17 : 00 2 時限 17 : 10～18 : 00	1 時限 9 : 30～10 : 20
2 時限 11 : 00～12 : 00	5 時限 15 : 50～16 : 50		2 時限 10 : 50～11 : 40
3 時限 13 : 00～14 : 00	6 時限 17 : 10～18 : 10		3 時限 13 : 00～13 : 50
			4 時限 14 : 10～15 : 00
			5 時限 15 : 20～16 : 10

試験実施規程（抜萃）が掲載されている（P60）ので参照のこと。

VI 進級について

上級学年に進級するためには進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。

これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から 2年次	2年次から 3年次	3年次から4年次
59年度以前入学生 進級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が17単位以上不足している場合。
60年度以降入学生 進級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が13単位以上不足している場合。

- 59年度以前入学生についても昭和62年度から「60年度以降入学生適用の進級規程」を一斉に適用するので計画的に単位を修得しておく必要がある。

進級規程及び進級基準が（P62・63）掲載されているので参照のこと。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、博物館学講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的、使命を達成する博物館、社会福祉を増進させるための機関等および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座		備 考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	〃	
博 物 館 学 講 座	〃	
社 会 福 祉 主 事 講 座	〃	
社 会 教 育 主 事 講 座	〃	

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後3日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。
ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問 い 合 わ せ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必 要 書 類	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届 書	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本一通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2カ月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転 部 ・ 転 科 願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり	要	要	⑦

XI 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 類	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 〔英文証明書〕 1通 300円
成績証明書		
卒業証明書		
学士証明書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了(見込)証明書		
在籍証明書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人物考査書	就 職 部	
健康診断証明書	学生部③番	
在学証明書	学生部②番	
学割		無 料
通学証明書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

（目 的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。

- (2) 授業料その他の学費を納入していること。
2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

1. この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和59年12月18日改正

(目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ. 経済学部、経営学部、経済学部第2部、経営学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行し、昭和60年度入学生から適用する。ただし、昭和59年度以前の入学生については、昭和62年3月31日までは、なお、従前の進級基準によるものとする。

進 級 基 準

この基準は、駒沢大学学則第14条に基づき、上級学年に進級する場合の基準を次のように定める。

(正規進級)

第1条 上級学年に正規進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

1. 1年から2年に進級する場合、卒業所要単位のうち、30単位以上。
2. 2年から3年に進級する場合、卒業所要単位のうち、60単位以上。
3. 3年から4年に進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

(注意進級)

第2条 正規の進級基準には、達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

1. 1年から2年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
2. 2年から3年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
3. 3年から4年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が1～16単位までとする。

付 則

この基準は、昭和51年4月1日より施行する。

講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(67)
随意科目(共通).....	(74)
国文学科.....	(79)
英米文学科.....	(88)
地理学科.....	(98)
歴史学科.....	(107)
社会学科.....	(121)
教職および資格講座.....	(135)

一般教育科目（共通）

人文分野

宗教学Ⅰ（佐々木 宏幹）	68
宗教学Ⅰ（洗 建）	68
宗教学Ⅰ（脇本 平也）	68
宗教学Ⅰ（山岡 隆晃）	68
宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）	68
宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）	68
宗教学Ⅱ（青龍 宗二）	68
宗教学Ⅱ（峰岸 孝哉）	69
宗教学Ⅱ（河村 孝道）	69
宗教学Ⅱ（若月 正吾）	69
宗教学Ⅱ（石井 修道）	69
哲学（久保 陽一・中村 友太郎）	69
論理学（小宮山 隆・戸田 洋樹）	69
歴史学（広瀬 良弘）	69
文学（田中 徳定）	70
芸術学（日本美術）（竹内 尚次）	70
芸術学（西洋美術）（宮崎 克己）	70

社会分野

法学憲法（和知 恵一）	70
経済学（荒木 勝啓）	70
政治学（小林 正敏）	70
社会学（橋爪 敏）	71
文化人類学（加藤 正春）	71
地理学（赤川 泰司）	71
地理学（渡邊 盾夫）	71

自然分野

自然科学概論（宇和川 正人）	71
自然科学概論（齊藤 浩三）	71
数学（齊藤 浩三）	71
生物学（菅原 敬）	72
生物学（清水 善和）	72
心理学（天野 珠子）	72
心理学（坂原 明）	72
人類学（中島 寿雄）	72
地学（宇和川 正人）	72
化学（高木 正博）	72
物理学（篠原 正雄）	73

宗教学人類学（佐々木 宏幹）	74
民間信仰論（谷口 貢）	74
日本宗教文化史（脇本 平也）	74
民衆宗教成立史（洗 建）	75
歴史哲学（國嶋 一則）	75
美術史概説（林 良一）	75
東洋思想研究（船津 富彦）	75
日本文化史Ⅱ（圭室 文雄）	75
日本仏教史（圭室 文雄）	75
日本民俗学（山折 哲雄）	75
英会話Ⅱ（J. ウェルズ・J. G. ギャリソン T. J. コーガン・P. A. ベンディネリィ）	75
英語LLⅡ（T. J. コーガン・見上 晃）	76
ドイツ語F（栗原 万修）	76
ドイツ語FLL（初級）（松岡 晋）	76
ドイツ語FLL（中級）（松本 洋子）	76
フランス語F（加藤 節子）	76
フランス語FLL（初級）（松岡 宏一）	76
フランス語FLL（初級） （マドレーヌ・マルタン）	76
フランス語FLL（中級） （マドレーヌ・マルタン）	76
中国語F（刈間 文俊）	76
中国語FLL（初級）（果 荃英）	77
中国語FLL（中級）（羅 湊明）	77
スペイン語F（佐藤 玖美子）	77
スペイン語FLL（初級）（ホワン・ナバロ）	77
スペイン語FLL（中級）（ホワン・ナバロ）	77
ロシア語F（杉山 秀子）	77
ロシア語FLL（初級） （タチャーナ・バリーソヴナ・野村）	77
ロシア語FLL（中級） （タチャーナ・バリーソヴナ・野村）	77
日本語F（初級）（留学生対象） （大塚 純子）	77
日本語F（中級）（留学生対象） （杉山 秀子）	78

随意科目（共通）

宗数学特講Ⅰ（松田 文雄）	74
宗数学特講Ⅱ（脇本 平也）	74
宗数学特講Ⅲ（洗 建）	74
哲学特講Ⅰ（東洋）（篠原 壽雄）	74
哲学特講Ⅱ（西洋）（國嶋 一則）	74

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学 I

佐々木 宏 幹

人類の文化における宗教の位置について考察するとともに宗教・呪術の人間・社会にとっての意味や役割について、宗教学者たちの理論・学説を手掛りに説明する。日本人の宗教の特質を他国のものと比較しつつ考察する。また仏教の基本的思想と社会的性格について検討する。
〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I

脇本 平也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
〔参考書〕脇本平也『宗教を語る』（日新出版）

宗教学 I

山岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムなどの諸信仰や外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、わが国における宗教現象の個別的問題についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
〔参考書〕『シャーマニズム』（中公新書）
『日本宗教』（大明堂）

宗教学 I (再クラス)

岡部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題を現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道Ⅰ』（東京書籍）

宗教学 I (再クラス)

奈良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教のおしえ』（東京書籍）

宗教学 II

青龍 宗 二

この講座は「宗教学 I」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関り合いをもっているか

を考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学IIは、宗教学Iを学んだ後を承けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日的意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関わり合いと、そこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学II』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の「沙門道元」によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の「道元の研究」さらには田辺元博士の「正法眼蔵哲学私観」の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の著「正法眼蔵」の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまことに難解とされている。

「正法眼蔵随聞記」は禅師の弟子懷井禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを模索してみたいと思う。

〔教科書〕 大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』

（山喜房佛書林）¥1,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を承けて、禅と

は何かについて具体的に学ぶ課題である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅という自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

¥1,950

哲 学

久 保 陽 一・中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

論 理 学

小 宮 山 隆・戸 田 洋 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書〕 『新しい認識への論理』（公論社）

歴 史 学

広 瀬 良 弘

文化の成立および展開、寺社が持った社会的な機能、社会慣習と法との関係など、日本の中世社会をさまざまな角度から分析することにより、歴史の流れを把握する力、すなわち、“歴史を見る目”が養われるようつとめたいと思う。

〔参考書〕 授業中に随時指示

文 学

田 中 徳 定

「こぶとり爺」や「わらしべ長者」、あるいは芥川龍之介の「芋粥」や「鼻」の素材となった話を取める説話集『宇治拾遺物語』を読み、説話文学の捉えた人間の種々相を探り、説話文学とその周辺について考える。

〔教科書〕 『宇治拾遺物語』（角川文庫）¥ 580

芸 術 学（日本美術）

竹 内 尚 次

日本美術は東洋美術のなかで、やはり仏教芸術が大半を占める。宗教性から離れるのは、近世・応仁乱以降の武家御殿絵、座敷飾り以後と見る。近世以下に触れることは時間上無理である。ここでは、上代仏教芸術（法隆寺金堂壁画）平安朝（密教美術・兩界曼荼羅、宮廷美術・絵巻、浄土教美術・鳳凰堂板絵）などに触れる。が中心を禅宗東渡によって我がくに展開した、深い哲学性を内包する鎌倉室町時代の禅林美術におく。

具体的には、現在の国宝、重文など、テピカルな作品群を正確にチェックし、位置づけることによって、日本美術の展開とその詩的な芸術性を把握してゆくこととしたい。

〔参考書〕 竹内尚次著『近世禅林美術』（至文堂）
竹内尚次著『群馬の思想（風外）』（あさお社）
玉村竹二著『夢窓国師』（平楽寺書店）

芸 術 学（西洋美術）

宮 崎 克 己

西洋のルネッサンスから現代までの絵画を、様々な角度から論ずる。造形表現の問題（空間、色彩など）、表現内容の問題（図像、自然など）、社会的問題（絵画の機能など）等を、スライドを使用し、具体例に即して考えていく。絵画の基本的な見方を修得する事を目標とする。

出席者には、適宜、美術館、展覧会の見学を要求する。

〔参考書〕 高階秀爾著『名画を見る眼』（岩波新書）

社 会 分 野

法 学 憲 法

和 知 恵 一

我々の日常生活は法と密接に関わり合っている。例えば、本屋さんで週刊紙を買う行為は、「売買契約」という民法 555 条以下の規定で律される。映画を見る・電車に乗るといった行為も同様に、すべて法的な側面を持っている。

天ぶらを揚げていて火事を出してしまうということがあるが（S 59 年の東京都では 6964 件の火事のうち 529 件が天ぶら油による火災）、この火事を出したことで、どんな刑罰が科されるのか、また隣家を焼失させてしまった損害の賠償はどうすべきか？

こういった具体的事例を多数挙げて講義を進める。

〔教科書〕 小林・高橋・花井・和知著『事例法学入門』（東京教学社）、『六法』

〔参考書〕 小林弘人他著『憲法 27 講』（創成社）

経 済 学

荒 木 勝 啓

教養の経済学としと最低限必要なマクロ経済理論を講義する。予定は次の通りである。

1. 貨幣数量説
2. 国民所得決定の理論
3. 乗数理論
4. IS・LM分析
5. 経済政策の効果
6. 総需要・総供給分析

〔参考書〕 中谷巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会学科の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕 高橋正則他著『現代日本の政治構造』（芦書房）

社会学

橋爪 敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものである。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（新版）（学文社）

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

文化人類学

加藤 正春

文化人類学の基礎的概念、方法、理論等を講義する。各地の民族の具体的な生活事実をできるだけ紹介しながら、人類文化の多様性と、この学問の基本的視点とを理解する。日本の伝統的社会・文化の紹介もおこなう。

地理学

赤川 泰司

概ね次の内容をとりあげる計画である。

1. 地理学の本質と方法について考察し、自然環境をベースにして、人間生活（民族・文化）、生産活動などについてグローバルな視点から概観する。
2. 世界を地誌的に概説しながら、現代社会におけるさまざまな課題（人口・食糧、資源・エネルギー、生活・環境、民族・国際関係 etc）に対して、地理的にアプローチして考察してみたい。

※ 開講時に、受講生の数、専攻などにより講義内容を具体的に検討する。多少の変更が予想される。

〔教科書〕 特に指定しないが、プリントでまとめる。地図帳が必要である。

〔参考書〕 文献、研究事例を、その都度紹介する。

地理学

渡邊 盾夫

ここでは、人文地理学を中心にし、地理学史、自然環境、この自然環境の中で人間がどのように適応して活動をしているのかを講義する。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

自然分野

自然科学概論

宇和川 正人

自然環境と資源、とくに、水資源、農林海洋、エネルギー資源の諸問題について解説する。あわせて、これら資源の開発利用と人類とのかわりあいについて考察する。

〔参考書〕 その都度紹介する。

自然科学概論

斉藤 浩三

20世紀後半における大規模な工業生産と高度の経済成長を支えてきたものはエネルギー資源であるが、そのエネルギーの形態や内容は、時代によって大きく変化する。

現代は、化石燃料から新エネルギーへの転換の時期にさしかかっている。新エネルギーのうちで原子力は最も主要なものであり、将来は一層その重要性が増大するので、原子力事情を展望し、また問題点と対応策について考察する。また、新エネルギーその他の新しい分野の開発では、きわめて高度な技術が要求されるが、これらの先端技術の現状や新素材の役割などについても平易に解説する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

数学

斉藤 浩三

科学、技術、産業、経済、社会などあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫している。これらのデー

データを統計的手法によって整理・集約し、図表化することによって、はじめて情報として役に立つようになる。データの集計・整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、推定、標本調査などの基本事項について、随時演習を行いながら講義する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

生 物 学

菅 原 敬

生命の起源、進化、遺伝など現代生物学がかかえる重要な問題についてのこれまでの研究成果を紹介する。

〔教科書〕 小野幹雄ほか『バイオサイエンス』（芦書房）¥2,200

生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起源から人類の誕生までの生物進化の流れに沿って配列し直し、進化の概念で統一・大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれて、遺伝子組換えや脳死などの現代的な問題にも言及する。

〔参考書〕 小野幹雄ほか『バイオサイエンス』（芦書房）

心 理 学

天 野 珠 子

この講座は、一般教養科目に組入れられているので、心理学を始めて学ぶ学生を対象に、心理学の基礎的分野のそれぞれについて概観し、現代心理学の理解と、日常生活への適用を捉えて行きたい。

心理学を学ぶことで、人間の行動や精神を客観的に把握することができると、社会生活における人間関係や物の見方が変わってくるものと思われる。従来の研究成果をもとに、具体的事例を紹介しながら講義を進めてゆきたい。

〔参考書〕 『心理学概説』（八千代出版）

心 理 学

坂 原 明

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説する

と共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なもの見方、考え方がどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしばって講ずる。性は人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育の自然科学分野に属しているので、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが、ヒトの本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、人類学一般教育の目的に副うものというべきであろう。

〔参考書〕 講義中に随時指示する。

地 学

宇和川 正 人

気、火、地圏および生物圏を通じて人類とのかかわりあいを主軸にして解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔参考書〕 その都度紹介する。

化 学

高 木 正 博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。

物 理 学

篠 原 正 雄

地球の重力は月に達する。なぜ、地球のすぐ外の宇宙船が無重力状態になれるのか。人工衛星はなぜ地球に落下しないのか。「運動する物体は進行方向に力を受けている。」という古代力学の主張は正しいのか。

まず、物理学の出発点である力学の考え方を、「力」、「エネルギー」を中心に解説する。次に、電磁気、光、熱、原子等の分野について、地学的な応用にもふれつつ概説する。最後に、物理学の応用例として、宇宙物理学の成果にも触れたい。

〔教科書〕 『一般教育 物理学』（東京教学社）

¥ 1,300

随 意 科 目 (共通)

宗教学特講 I

松 田 文 雄

——宗教思想および用語の概説——，特に教職単位であることを考慮し，宗教思想の潮流，および宗教思想上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇 本 平 也

——宗教現象の構造——宗教現象は，その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば，宗教体験，思想・教義，儀礼，教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』(日新出版)

宗教学特講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題，とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範，更に底流をなせ宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

哲学特講 I (東洋)

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする，儒教・仏教，そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命，非儒などの精神が韓非子にいかにも受容されたかなどを中心に，先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び，併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 莊子，第一冊(岩波文庫)

哲学特講 II (西洋)

國 嶋 一 則

人間は，何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常，われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは，自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって，現代世界の有力な主義を明確にし，自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

宗教がある社会においてどのような意義と役割をもつかという問題を考察することを主眼としながら，宗教と人生観・世界観との関係，宗教儀礼の象徴的性格などについて，とくに言及したい。

民間信仰論

谷 口 貢

地域社会における神社および寺院の具体的展開の検討をとおして，民間信仰の性格と構造を明らかにしたい。また，カミとホトケをめぐる各地の民俗を取りあげ，日本人の神観念・祖先観・他界観についても考察する。

〔教科書〕 桜井徳太郎著『民間信仰』(塙書房)

〔参考書〕 桜井徳太郎著『結衆の原点』(弘文堂)

日本宗教文化史

脇 本 平 也

日本には，神道，仏教，キリスト教，民俗宗教，その他さまざまな多様な宗教が並び行われている。しかし，それらすべての宗教を通じて，いわば日本宗教とでもよぶべき共通の特色が見られるのではあるまいか。そういう問題関心を軸としながら，日本宗教文化史の流れを探

ってみたい。

〔教科書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）

民衆宗教成立史

洗 建

日本仏教の民衆化，土着化に焦点を合わせ，仏教教団の地方伝播，地方定着について考察する。今年度は鎌倉室町期における禅仏教の地方発展をとりあげる。

〔参考書〕 随時指示する。

歴史哲学

國 嶋 一 則

歴史哲学とは，歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって，われわれは「いかに生き，何を行為すべきか」を学ぶのである。そこで，次のような歴史についての反省や考察をする。

I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述
〔1〕 a. 文書の選択，b. 記録命題，c. 還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述，〔2〕 a. 歴史を動かす意志，b. 表現。

〔参考書〕 その都度示す。

美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て，わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し，視覚的に理解を深めるように努める方針である。

東洋思想研究

船 津 富 彦

広大なる中国の自然の中で，中国人が独自に創作した思想について概説し，そのよる可きテキストや著者の畧伝を紹介し，それらが後世どのように受容され，変化して来たか，又，日本の文化にどのような影響を与えたかについて，彼等の代表的な文を読みつつ，考えてみたい。

日本文化史Ⅱ

圭 室 文 雄

日本文化史の流れのなかで，その支柱となっているのは宗教である。とくに時代の思想の主導を宗教がになっ

た時期としては，大別して三つある。第一は鎌倉時代，第二は江戸時代，第三は明治時代である。そこで本年はこの三つの時期に焦点を合せながら，史料に拠って，先人達の生きざまを検討してみたいと思う。そして，その中から日本人の歴史における価値観をあきらかにしたい。

〔教科書〕 池田，大浜，圭室編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史Ⅱ』（山川出版社）

日本仏教史

圭 室 文 雄

日本仏教史の中で今年は江戸時代をとりあげてみたいと思う。江戸時代をとりあげた理由は，この時期こそが寺院の経営基盤となった檀家制度が形成されたからである。表面的にいえばまさに仏教が国教となった時代であった。そして現在も我々の生活の中にある檀家制度がどのような契機で作られ，一方寺院がこれをどのように利用したのか，それに応じ仏教の教義がどのように変質したのか，これによりキリスト教徒はいかなる差別をされたのか，民衆が仏教に求めた本当の信仰は何なのか，等について史料に拠りながら検討を重ねてみたいと思う。

〔教科書〕 圭室文雄『江戸幕府の宗教統制』（評論社）

〔参考書〕 下出積与『日本史における民衆と宗教』（山川出版社）

日本民俗学

山 折 哲 雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し，現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

英 会 話 Ⅱ

J. ウェルズ・J. G. ギャリソン
T. J. コーガン・P. A. ベンディネリイ

全学で4クラスを設け，学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担任名及び曜日，時限，クラスは時間割表で確認し，詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

英語 LL II

T. J. コーガン・見上 晃

英語LL Iのアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LL Iを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

ドイツ語 F

栗原 万修

ドイツと日本に古くから伝えられてきた民話を、ドイツ語で読んでいく。ドイツの民話はグリム兄弟のものを主とする。そして民話を通し両国間の国民性のちがい等についても考察していきたい。テキストはその都度、教場にて配布する(無料)。

ドイツ語FLL (初級)

松岡 晋

一年次のドイツ語(1G, 1R)を修得した者を対象に、ビデオテープ等の教材を用いて、基本文型を用いた日常会話の練習をおこないます。参加者について特に条件はありませんが、毎回かならず出席し、一年間でなにかを自分のものにしてしようという最低限度の意欲のある者の受講を希望します。

〔教科書〕 テキストはその都度プリントで配布。

ドイツ語FLL (中級)

松本 洋子

一年次のドイツ語を終えた者を対象に、ビデオやテープを用いて、基本的な文型や語彙を身につけ、日常的な会話の表現力をつけていきたいと思う。

〔教科書〕 テキストはその都度配布する。

フランス語 F

加藤 節子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。

17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば19世紀の作家、ラマルチース、シャトーブリアン、スタンダール、ミュ

ッセ、ジョルジュ・サンド、バルザック、フロベール、ボードレール、ヴェルレーヌなどの作品の一部を抜粋して読めればと考えている。

〔教科書〕 プリント

フランス語FLL (初級)

松岡 宏一

“Entrée Libre”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現能力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話することに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむことができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕『Entrée Libre 1』

フランス語FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的な会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Sans frontière』leçon 1より。

フランス語FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『Entrée Libre 1』

中国語 F

刈間 文俊

中国語を二年次まで学んだものを主たる対象とし、文学作品の講読を中心としつつ、より上へのレベル向上を目的として、耳の訓練も随次取り入れていく。辞書を必ず持参すること。ここ数年来の新しい作品を選び、中国語の学習を通して、中国を研究する意味などを語りあいたい。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

中国語 FLL (初級)

泉 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕 必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

佐 藤 玖 美 子

本講座は、1・2年で習得した知識をもとに、特に読解力の養成を目的とします。今年度はテキストとして、スペイン独特の諺に富んだ頓知話や奇想天外のおどけ話を集めた民話集を選びました。これらの民話を読みながら、笑いの中に含まれる教訓、そしてスペイン民衆の生活雰囲気やその感情、心意気などを味わってみたいと思います。

〔教科書〕 プリント

スペイン語FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

スペイン語FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語FLL (初級)

タチヤーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

ロシア語FLL (中級)

タチヤーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への等一步となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F (初級) (留学生対象)

大 塚 純 子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日 本 語 F (中級) (留学生対象)

杉 山 秀 子

日本語Fの初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学(高橋 文二)	80
基礎国文学(林 達也)	80
基礎国語学(木村 晟)	80
基礎中国文学(前期)(中村 璋八)	
(後期)(田中 智幸)	80

専門教育科目

国文学概論(水原 一)	80
国語学概論(木村 晟)	80
国文学講読Ⅰ(村上 光徳)	81
国文学講読Ⅱ(田中 徳定)	81
国文学講読Ⅲ(富士 昭雄)	81
中国文学講読(篠原 壽雄)	81
国語学研究(山田 巖)	81
国文学史(上代)(遠藤 宏)	81
国文学史(中古)(高橋 文二)	81
国文学史(中世)(岩佐 美代子)	81
国文学史(近世)(林 達也)	81
国文学史(近代)(片岡 懋)	82
国語学演習Ⅰ(木村 晟)	82
国文学演習Ⅰ(上代)(小野 寛)	82
国文学演習Ⅰ(中古)(高橋 文二)	82
国文学演習Ⅰ(中世)(村上 光徳)	82
国文学演習Ⅰ(近世)(林 達也)	82
国文学演習Ⅰ(近代)(片岡 懋)	82
国文学演習Ⅰ(近代)(畑 実)	82
国文学演習Ⅰ(近代)(橋本 芳一郎)	82
国語学演習Ⅱ(山田 巖)	83
国文学演習Ⅱ(上代)(小野 寛)	83
国文学演習Ⅱ(中古)(高橋 文二)	83
国文学演習Ⅱ(中古)(廣島 まさる)	83
国文学演習Ⅱ(中世)(村上 光徳)	83
国文学演習Ⅱ(中世)(水原 一)	83
国文学演習Ⅱ(近世)(林 達也)	83
国文学演習Ⅱ(近世)(富士 昭雄)	83
国文学演習Ⅱ(近代)(橋本 芳一郎)	83
国文学演習Ⅱ(近代)(片岡 懋)	83
国文学演習Ⅱ(近代)(大室 英爾)	84
国文学演習Ⅱ(近代)(石割 透)	84
国文学研究(橋本 芳一郎)	84
国文学研究(片岡 懋)	84
国文学研究(村上 光徳)	84
文学概論(橋本 芳一郎)	84

国語学史(木村 晟)	84
言語学概論(飯島 周)	84
上代文学講読(小野 寛)	84
近代文学講読(片岡 懋)	84
上代文学(小野 寛)	85
中古文学(廣島 まさる)	85
中世文学(水原 一)	85
近世文学(林 達也)	85
近代文学(畑 実)	85
国文学特講Ⅰ(富士 昭雄)	85
国文学特講Ⅱ(岩佐 美代子)	85
国文学特講Ⅲ(石原 昭平)	85
中国文学(前期)(中村 璋八)	
(後期)(藤井 友子)	86
中国文学演習(飯田 利行)	86
中国文学概論(飯田 利行)	86
仏教概論(山内 舜雄)	86
東洋思想研究(船津 富彦)	86
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(杉山 博)	86
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(木槻 哲夫)	86
日本文化史Ⅱ(圭室 文雄)	86
書道史(谷村 義雄)	86
書道実習Ⅰ(金子 卓義)	87
書道実習Ⅱ(金子 卓義)	87
美術史概説(林 良一)	87
美術史(谷村 義雄)	87
現代美術(宮崎 克己)	87
編集実務(宇賀田 達雄)	87
英米文化(荒井 良雄)	87
日本民俗学(山折 哲雄)	87

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

高橋文二

国文学の基礎的な問題について講じる。

〔教科書〕 『説経節（山椒太夫・小栗判官他）』
（平凡社 東洋文庫）¥1,800

基礎国文学

林 達也

日本古典・近代文学の関連を見わたし、或いは、比較検討しながら、諸問題（作品論・表現論・歴史状況との関係・文体・解釈・考証・伝本など）に対する基礎的学力の確立を目的とする。具体的には、まず、和歌を素材にして見ていくこととする。

〔教科書〕 古典研究会編『日本詩歌選』〔改訂版〕
（新典社）¥800

基礎国語学

木村 晟

国語を愛し、正しく育てるために十分な理解と批判力を養いたいと思う。併せて現代国語の諸問題をも採り挙げて考察する。

本年は日本語古典の文法を体系的に講義する。文法体系は現在最も一般的とされている橋本学説によるが、必要に応じて山田・時枝両学説を比較対照させることもある。

〔教科書〕 和田利政他著『国文法要説（文語篇）』
（桜楓社）¥800

〔参考書〕 授業中に紹介する。

基礎中国文学

（前期）中 村 璋 八
（後期）田 中 智 幸

前期は、唐・宋の詩文を中心とし、後期は、諸子百家の代表的作品を解説しながら、中国古典の読解力を養成し、また、漢字の構成、中国の歴史や風土、習慣などを説明し、中国古典と日本文学との関聯なども説明して行く。

〔教科書〕 中村璋八編『中国思想文学通史』（明治書院）¥1,500

専門教育科目

国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について講じ、研究課題・研究法等について概観する。

〔教科書〕 藤野義雄『日本文芸概論』（加藤中道館）

国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。——こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文学論や文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）
¥800

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』（岩波書店）
時枝誠記著『国語学原論』（岩波書店）
山田忠雄著『国語学概論』（日大通信教育部）

国文学講読Ⅰ

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読Ⅱ

田中徳定

『紫式部日記』を講読し、平安朝女流作家の文学世界のありようを考える。

〔教科書〕『紫式部日記』（桜楓社）¥1,400

国文学講読Ⅲ

富士昭雄

西鶴の雑話物『方の文反古』講読。西鶴晩年の作風を通して西鶴文学の特質を考察する。

〔教科書〕岡本勝編『方の文反古』（桜楓社）

〔参考書〕麻生磯次・富士昭雄訳註『西鶴置土産・方の文反古』〔対訳西鶴全集・15〕（明治書院）

中国文学講読

篠原壽雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにつとめたい。

〔教科書〕詩文精粹（明治書院）¥1,100

〔参考書〕その都度紹介したい。

国語学研究

山田巖

天草版伊曾保物語は、天草版平家物語、天草版金句集と合綴して文禄2年（1593）天草のイエズス会学林で刊行されたローマ字である。イエズス会の神父たちのための日本語教科書であったが、ローマ字書きであるために

当時の話しことばを研究するには第一級の資料である。古代語が近代語に変化する様相があざやかに見られる言語資料である。語法・音韻・語彙等について詳しく究明したい。

〔教科書〕『天草版伊曾保物語』（勉誠社）
¥1,200

〔参考書〕『キリシタン版エソポのハプラス私注』（臨川書店）¥7,500

国文学史（上代）

遠藤宏

文学の発生からの上代文学の流れを講述する。

〔教科書〕小野寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

国文学史（中古）

高橋文二

単なる通史ではなく、例えば自然観の推移・展相を通して王朝文学の歴史を辿ってみたい。特に『蜻蛉日記』や『源氏物語』を始めとする王朝の女流文学の諸作品を対象とする。

〔教科書〕『風景と共感覚』（春秋社）

国文学史（中世）

岩佐美代子

和歌史の流れを、作品、作者、歌壇の動向に即して講ずる。

〔教科書〕プリントを適宜配付。

〔参考書〕『資料 日本文学史中世篇 改訂版』（桜楓社）¥1,200

国文学史（近世）

林達也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。但し、本年は狂文、狂歌を中心に、できれば、狂詩にも言及したい。教材は、とりあえず、下記のものとするが、必要に応じて、プリントをする。

〔教科書〕『年表資料 近世文学史』（笠間書院）
¥800

国文学史(近代)

片岡 懋

明治、大正文学の流れをその中に現れた作家とその作品を通して考察し、併せて近代文学の本質について考える。徳富蘆花の「思出の記」を読んでおくこと。

〔参考書〕 猪野謙二『明治文学史』上・下(講談社)

国語学演習 I

木村 晟

院政期の国語資料である『法華百座法談問書抄』を採り挙げ、院政時代の音韻・語彙・語法・仮名づかいの各方面から考察する。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『日葡辞書』『下学集』『節用集』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 小林芳規編『校註 法華百座問書抄』
(武蔵野書院) ¥ 600

〔参考書〕 授業中に紹介する。

国文学演習 I (上代)

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。演習では『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当して、徹底的によみ込んでゆく。今年度は巻六と巻七とから歌を取り上げる。

〔教科書〕 鶴久・森山 隆編『万葉集』(桜楓社)

〔参考書〕 小野 寛校註『万葉集抄』(笠間書院)

国文学演習 I (中古)

高橋 文二

『源氏物語』の「御法」の巻を読み、王朝文学世界の特徴を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。

〔教科書〕 『源氏物語』〔中〕(桜楓社) ¥ 1,200

国文学演習 I (中世)

村上 光徳

『無名抄』の研究。とくに歌論・歌学に関する研究を中心とする。六条源家の流れを受けている長明が当時の歌壇をどううけとめていたのか、また作歌態度等をも考える。

〔教科書〕 『方丈記・無名抄』(双文社)

国文学演習 I (近世)

林 達也

細川幽齋が折にふれて述べたことを、烏丸光広が筆記した『耳底記』を読む。幽齋は、中世と近世が接するところに位置する歌人・古典学者であり、当世に大きな影響を及ぼしている。丁寧に読みとき、和歌及び歌壇の傾向だけでなく、この時代の考え方も見ていきたい。尚、教材は、版本をプリントしたものを用いる。参考資料等もその都度指示する。

国文学演習 I (近代)

片岡 懋

国木田独歩(忘れ得ぬ人々、源叔父、河寮、帰去来、牛肉と馬鈴薯、酒中日記、女難、春の鳥、竹の木戸)、正宗白鳥(摩埃、何処へ、入江のはとり)、夏目漱石(永日小品、硝子戸の中)、志賀直哉(荒絹、クローディアスの日記、正義派、清兵衛と瓢箪、兎を盗む話、小品五つ、小僧の神様)、芥川龍之介(芋粥、偷盗、或日の大石内蔵助、地獄変、枯野抄、あの頃の自分の事、秋、大導寺信輔の半生、玄鶴山房、蟹氣樓)、井伏鱒二(山椒魚、「槌ツア」と「九郎治ツアン」は喧嘩して私は用語について煩悶すること、追剥の話、掃桿隊長、集金旅行、川)、壺井栄(桶嚢、林檎の袋、柿の木のある家)などの作家と作品について考える。

国文学演習 I (近代)

畑 実

「小説神髓」と「小説総論」

坪内逍遙の「小説神髓」と二葉亭四迷の「小説総論」をとりあげ演習を行う。演習の方法等は最初の時間に指示する予定。

〔教科書〕 『坪内逍遙・二葉亭四迷集』〔現代日本文学大系〕(筑摩書房) ¥ 3,500

国文学演習 I (近代)

橋本 芳一郎

「鷗外・漱石」……森鷗外・夏目漱石の司文豪の作品の中から、発表者の希望する作品について演習として攻究し、近代文学の研究法を学ぶ。

〔教科書〕 各自手持ちのもの(文庫本でも可)。

〔参考書〕 その都度教示する。

国語学演習Ⅱ

山田 巖

一百座聞書抄は法華経を中心に仏典が講じられたときの聞書である。院政時代の言語資料として貴重なものであるが、ほぼ同時の打聞集、極楽願往生歌と比較参照しながらこの時代の語法を究めたい。同時に影印本によって片仮名の字体がどうであったか、この三つの資料を比較して究明したい。

〔教科書〕『法華修法一百座聞書抄』（勉誠社）
¥900

国文学演習Ⅱ（上代）

小野 寛

上代作品を徹底的により込んでゆく。万葉集巻一を対象とする。並行して、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、採み合いながら、それぞれの卒業論文への結実を図る。

国文学演習Ⅱ（中古）

高橋 文二

『百人一首』所載の王朝歌人の歌を精読し、王朝的なものの特徴を考える。卒論の指導を兼ねる。演習の方法は三年次の演習Ⅰに準じる。

〔教科書〕 有吉保訳注『百人一首』（講談社学術文庫）¥1,100

国文学演習Ⅱ（中古）

廣島 まさる

影印本によって、変体がなの読み方に馴れると共に、源氏物語の文章を精読して、文章表現、情調、人物描写などについて吟味する。

〔教科書〕 源氏物語『蛸』影印本（新典社）
『写本の読み方』（桜楓社）

国文学演習Ⅱ（中世）

村上 光徳

冷泉家の祖阿仏尼の書いた「十六夜日記」を研究する。合わせて阿仏尼の伝記や当時の和歌の家である御子左家の問題、夫の為家のことなど多角的に考察する。

国文学演習Ⅱ（中世）

水原 一

歴史物語『増鏡』を教材として、鎌倉期の諸事件及び諸人物の考証的研究を試みる。あわせて卒業論文に関する各自の調査・研究の実際につき指導する。

〔教科書〕『神皇正統記・増鏡』（日本古典文学大系）（岩波書店）

国文学演習Ⅱ（近世）

林 達也

本年は、『仁勢物語』を読む。本編は、近世初頭、『伊勢物語』をなおしたものであって、当代の対古典意識、文章・表現意識がうかがえる。読解には、かなりのエネルギーがいるが、当時の風俗等にも目を配りつつ、丁寧に読んでゆきたい。

〔教科書〕 小林祥次郎編『仁勢物語』（勉誠社）
¥600

国文学演習Ⅱ（近世）

富士 昭雄

影印本による西鶴及び秋成の小説の演習。併せて卒業論文の指導をする。

〔教科書〕『好色一代男』『雨月物語』（各プリント配布）
〔参考書〕 教場で指示する。

国文学演習Ⅱ（近代）

橋本 芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

国文学演習Ⅱ（近代）

片岡 懋

北村透谷、石川啄木、藏原惟人、中野重治の評論を読み、それぞれの文学についての考え方とそれらの時代なり社会なりとのかかわりについて考察し、併せて卒論についての指導も行う。取敢えず下記をテキストとして準備しておくこと。

〔教科書〕『北村透谷選集』（岩波文庫）

国文学演習Ⅱ(近代)

大室英爾

日本近代文学のなかから主要な作品を選び、読んでいくなかで問題点を探り深めていく。この作業を各自の卒業論文作成の一助とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

国文学演習Ⅱ(近代)

石割透

論文の書き方、基本的な文献の紹介、研究方法について説明した後、芥川龍之介の代表的な作品を読んで検討していく。報告者を決め、その報告に基づいて問題点を追究していきたい。

〔教科書〕 『羅生門・鼻・芋粥』(角川文庫)など。

国文学研究

橋本芳一郎

『日本近代象徴派と耽美派』……鷗外の初期評論、晶子の詩歌、上田敏による西欧高踏派・象徴派の詩の紹介、有明・白秋・杳太郎らの創作詩、荷風・潤一郎の初期小説・戯曲などを作品鑑賞を中心に研究する。

〔教科書〕 詩歌はプリントして与える。

〔参考書〕 その都度指示する。

国文学研究

片岡懋

明治33年から40年にかけて発表された、国木田独步、田山花袋、島崎藤村、小栗風葉、徳田秋声、小杉天外、永井荷風、木下尚江、夏目漱石などの作品を中心に、蕩播期から確立期に至る文学界を展望する。

国文学研究

村上光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評の部分で女の論・男の論を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕 『昭和校注 無名草子』(武蔵野書院)

文学概論

橋本芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用。

〔参考書〕 その都度指示する。

国語学史

木村晟

国語学が国語に対する意識の理論的体系であるとするならば、国語学史は国語意識の展開の歴史である。単に研究業績の解説にとどまることなく、国語学史が国語学の展開に重要な意義をもつことを明らかにしたい。本年は特にテニヲハ(文法)の研究史と辞書の研究史とに重点を置く。

〔教科書〕 田辺正男著『国語学史』(桜楓社)

¥1,800

〔参考書〕 授業中に紹介する。

言語学概論

飯島周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 V. アテジウス『機能言語学』(桐原書店) ¥2,800

上代文学講読

小野寛

『万葉集』を講読する。一首一首の訓みから、表現と心、作歌の場に至るまで、十分に考察し、その背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細に調べながら読んでゆく。

〔教科書〕 小野寛校注『万葉集抄』(笠間書院)

近代文学講読

片岡懋

森鷗外の「舞姫」,「うたかたの記」,「文づかひ」, 樋

口一葉の「十三夜」,「わかれ道」,「われから」,国木田独歩の『武蔵野』所収の諸作品,夏目漱石の「草枕」,「二百十日」,「野分」,「夢十夜」,「三四郎」などを読んで,日本の近代文学とはどのようなものであるのか考える。取り敢えず「三四郎」を準備しておくこと。

〔参考書〕 阿部知二『文学入門』伊藤 整『文学入門』中野好夫『文学の常識』

上代文学

小野 寛

上代とはどんな時代か。古代説話をよみながら,その不思議な世界に分け入ってみよう。ことばの本源を調べ,古代日本人の心を探ってゆく。

〔教科書〕 西宮一民編『古事記』(桜楓社)

中古文学

廣島 まさる

影印本によって写本を読む力を養うと共に,中古語の理解を深めたい。なお『和泉式部集』にも触れて,作品の持つ文芸性を究明したい。

〔教科書〕 鈴木知太郎解説『影印本和泉式部日記』

〔参考書〕 『写本の読み方』(桜楓社)

中世文学

水原 一

中世軍記の巨篇である『太平記』の重要章段を影印版部本で読み,解釈・考証を通してその軍記としての特質・意義について考える。

〔教科書〕 水原・長谷川『版本太平記抄』(桜楓社)

近世文学

林 達也

『おくのほそ道』を読む。当書は,広く読まれてもい,また,諸研究も盛んに行われているが,スタンダードができあがっているとは,必ずしも言えない。諸注釈書,諸論文を参考にしつつ,さまざまな読みの可能性を見ることにしたい。

〔教科書〕 校注 志田義秀・延義編『おくのほそ道』付笈の小文 幻住庵記(武蔵野書院)
¥ 350

近代文学

畑 実

明治三十年代の写実主義文学

明治末の自然主義文学の基礎をきずいた三十年代の写実主義文学の動きを小説評論の両面から論じ,自然主義へのつながりを考えてみたい。テキストは用いないが,時々プリントを配布する予定。

国文学特講Ⅰ

富士 昭雄

「秋成の文学」研究。秋成の『雨月物語』『浅茅が宿』と『春雨物語』『宮木が塚』,あるいは『雨月』『白峯』と『春雨』『血かたびら』など,両作品に通底する問題を取上げ,秋成の文学の特質を考察する。

〔教科書〕 浅野三平等編『秋成作品選』(桜楓社)

〔参考書〕 鶴月 洋『雨月物語評釈』(角川書店)
『英草紙等・春雨物語』(日本古典文学全集)(小学館)

国文学特講Ⅱ

岩佐 美代子

中世女流日記の一,『弁内待日記』をとりあげる。注釈研究の進んでいない作品であるが,文章としては簡潔平明であり,演習形式で読み進めたいと考えている。

〔教科書〕 『彰考館蔵 弁内待日記』(和泉書院)
定価未定

国文学特講Ⅲ

石原 昭平

物語文学と説話文学。物語の発生と展開における説話と関連を考える。カタリゴトからモノガタリへ,すなわち,口承の氏族伝承から個性的物語への史的展開を,具体的に浦島説話・羽衣伝説をふくむ万葉風土記から竹取,宇津物語への変貌の諸相において考究する。そこには,記紀歌謡の説話群の「歌う」から「語る」という歌のもつ伝承的背景が物語に投影し,万葉集の竹取翁から物語を誕生せしめる問題,日本武尊の叙事詩あるいは,貴種流離譚というモチーフにみる伊勢の業平,宇津保の俊蔭,源氏物語須磨・明石の光源氏の叙情の問題などがある。

〔教科書〕 記紀歌謡・万葉集・古事記・風土記各々の物語を教場で指示。

〔参考書〕 西郷信綱『日本古代文学史』三谷栄一『物語文学の世界』『物語史の研究』

中国文学

(前期) 中村璋八
(後期) 藤井友子

中国では夙に佚し、日本にのみ伝存した五行大義を、平易な解説を加えながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、奈良朝より江戸時代に至るまでの陰陽道、仏教、神道、医学、国文学、年中行事、民間信仰など多方面の日本文化に大きな影響を及ぼした説で、国文学や日本史、東洋史を専攻する人々には必読のものである。

〔教科書〕 中村璋八『五行大義校註』(汲古書院)
¥3,000

中国文学演習

飯田利行

二十一世紀をリードするにいたる仏者の一人に良寛和尚が挙げられている。その良寛詩集を縦横に講釈し、また学生に意見を發表させて真価を確認させる。

〔教科書〕 飯田利行訳著『良寛詩集譯』(大法輪閣)
¥3,000

中国文学概論

飯田利行

国語科教師として、その任を全うしうるよう配慮して、小学(文学・音韻・訓話)の基礎知識と、特に日本文学と中国文学とかかわりある事項・作品を強調して講ずる。

〔教科書〕 飯田利行著『中国文学概論』(中国・日本史文研究会) ¥2,000

仏教概論

山内舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

東洋思想研究

船津富彦

広大なる中国の自然の中で、中国人が独自に創作した思想について概説し、そのよる可きテキストや著者の畧伝を紹介し、それらが後世どのように受容され、変化して来たか、又、日本の文化にどのような影響を与えた

かについて、彼等の代表的な文を読みつつ、考えてみたい。

日本史概説Ⅰ(古代・中世)

杉山博

室町時代の諸様相を各方面から検討してみたい。

〔教科書〕 脇田晴子著『室町時代』(中公新書776)
(中央公論社) ¥600

日本史概説Ⅱ(近世・近代)

木槻哲夫

近世・近代にわたる日本社会の発展を概観しつつ、研究史にもふれ、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。

〔参考書〕 『地方史研究必携』(岩波書店)
¥4,800 ほか

日本文化史Ⅱ

圭室文雄

日本文化史の流れのなかで、その支柱となっているのは宗教である。とくに時代の思想の主導を宗教がなった時期としては、大別して三つある。第一は鎌倉時代、第二は江戸時代、第三は明治時代である。そこで本年はこの三つの時期に焦点を合せながら、史料に拠って、先人達の生きざまを検討してみたいと思う。そして、その中から日本人の歴史における価値観をあきらかにしたい。

〔教科書〕 池田・大浜・圭室編『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史Ⅱ』(小川出版社)

書道史

谷村義雄

文学の発生から書体の変遷、書風の変化、書法の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿り、また日本での独自の展開を概観する。本学では書道科の教職課程として開講しているので、書道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書道史の延長とする。

〔参考書〕 神田喜一郎『中国書道史』(岩波書店)
¥5,800

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃まで）は楷行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書「高貞碑」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道Ⅰ』〔高校用教科書〕（教育出版）
『高貞碑』〔書学名蹟選〕（日本書道資料㈱）

書道実習Ⅱ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃まで）は楷行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国王羲之の行書「集字聖教序」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道Ⅱ』〔高校用教科書〕（教育出版）
『集字聖教序』〔書学名蹟選〕（日本書道資料㈱）

美術史概説

林 良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

美術史

谷村義雄

書道科の教職課程として開講する関係上、講義や内容は書の歴史とする。

〔参考書〕 『書の本』（筑摩書房）¥1,200

現代美術

宮崎克己

1870年代のフランス印象派成立前後の様々な問題について考える。印象派を詳しく論ずるだけでなく、印象派が西洋の長い美術の伝統の中でどのような意味を持っていたか、また印象派が現代美術にどのような新しい道を

拓かせたかを幅広く論ずる。出席者には、適宜、美術館、展覧会の見学を要求する。

編集実務

宇賀田達雄

編集者は何を考え、どのような仕事をしているのか。編集者が知っていなければならないことは何か。編集者に必要な技術とはどんなものか——この講義では、主として雑誌づくりのために必要な知識を中心に、編集の現場での仕事のやり方を、できるだけ実技を通して伝えようと思う。将来マスコミ方面に進む人には当然必要な知識だが、情報化時代の今日、官庁でも企業でも団体でも広報誌、会報、カタログ、広告など、いろいろな形の印刷物を作る機会がふえているので、そういう場合にも対応できるように、編集の実務に必要なことをまとめてみたい。

〔参考書〕 『編集校正便覧』（印刷学会出版部）
¥250

英米文化

荒井良雄

英米文化を、思想、教育、映画、演劇、音楽、絵画などを中心に講義します。特に英米の映画文化に焦点を合わせて講義を進めます。

〔参考書〕 『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』
（朝日新聞社）

日本民俗学

山折哲雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論(中岡 洋)	89
米文学概論(金関 寿夫)	89
基礎英語 I A (東 雄一郎)	89
基礎英語 I A (坂本 武)	89
基礎英語 I A (高野 正夫)	89
基礎英語 I B (A. G. Ryder)	89
基礎英語 I B (N. Readdy)	89
基礎英語 I B (T. J. Wright)	90
基礎英語 II A (坂本 武)	90
基礎英語 II A (東 雄一郎)	90
基礎英語 II A (高野 正夫)	90
基礎英語 II B (N. Readdy)	90
基礎英語 II B (A. G. Ryder)	90

専門教育科目

英語学概論(大沢 一雄)	90
英作文 I (岡田 尚)	91
英作文 I (佐藤 千春)	91
英作文 I (坂本 武)	91
英作文 I (東 雄一郎)	91
英文学史 I (荒井 良雄)	91
英文学史 II (中岡 洋)	91
米文学史(佐藤 千春)	91
英語史(岡田 尚)	91
音声学(坂本 武)	92
英米語学演習(英作文 II)	
(57年度以前入学生: 批評論研究)	
(坂本 武)	92
英米語学演習(英作文 II)	
(57年度以前入学生: 批評論研究)	
(佐藤 千春)	92
シェイクスピア(荒井 良雄)	92
英文学演習 I (中世)(小倉 美知子)	92
英文学演習 II (英文学 16・17 C)	
(高野 正夫)	92
英文学演習 IV (英文学 18 C)	
(小林 亨)	92
英文学演習 V (詩 19・20 C)	
(高野 正夫)	93
英文学演習 VI (小説 I 19 C)	
(中岡 洋)	93
英文学演習 VII (小説 II 20 C)	
(飯島 淳秀)	93

英文学演習 VIII (批評 19・20 C)

(東 雄一郎)	93
米文学演習 I (詩)(金関 寿夫)	93
米文学演習 II (小説 I)(岡崎 寿一郎)	93
米文学演習 III (小説 II)(佐藤 千春)	93
米文学演習 IV (小説 III)(田中 剛)	93
米文学演習 V (批評)(赤祖父 哲二)	94
英米演劇演習(荒井 良雄)	94
英文学特講 I (英文学 16・17 C)	
(石原 孝哉)	94
英文学特講 II (英文学 18 C)	
(小林 亨)	94
英文学特講 III (詩 19・20 C)	
(高野 正夫)	94
英文学特講 IV (小説 I 19 C)	
(中岡 洋)	94
英文学特講 V (小説 II 20 C)	
(飯島 淳秀)	94
英文学特講 VI (批評 19・20 C)	
(武田 勝彦)	94
米文学特講 I (詩)(東 雄一郎)	94
米文学特講 II (小説 I)(佐藤 吉介)	95
米文学特講 III (小説 II)(山縣 敏夫)	95
米文学特講 IV (小説 III)(田中 剛)	95
米文学特講 V (批評)(佐藤 吉介)	95
英米演劇特講(落合 和昭)	95
英米語学演習(英語学)(大沢 一雄)	95
英米語学演習(英語史)(繁尾 久)	95
英米語学演習(英文法)(岡田 尚)	95
英米語学演習(英会話)(N. Readdy)	95
英米語学演習(英会話)(W. D. Hubbard)	96
英米語学演習(英会話)(T. J. Wright)	96
英米文化(荒井 良雄)	96
時事英語(大沢 一雄)	96
商業英語(青山 則雄)	96
ラテン語特講(佐藤 玖美子)	96
日本文化史 II (圭室 文雄)	96
現代美術(宮崎 克己)	97

英 米 文 学 科

基礎教育科目

英文学概論

中 岡 洋

Shakespeareを始めとして多くのすばらしい作家たちが作りあげる英文学の世界は深い魅力をたたえている。その魅力ある世界について基礎となる知識を講じていく。英文学を学ぶ喜びを味わい、学ぶ意欲を一層深めてもらいたい。

米文学概論

金 関 寿 夫

米文学鑑賞研究に必要な時代背景、思想、文学批評などを解説、アメリカ文学の特質を明らかにする。

〔教科書〕 志村・八木著『アメリカの文学』（南雲堂）

〔参考書〕 教場で示す。

基礎英語 I A

東 雄一郎

Reading, Writing, Hearing, Speakingの総合的な見地から英語力を高めることに主眼をおく。特に、ReadingとHearingに関するtrainingを主とする。各課には様々なcheckがあるために、preparationは必要不可欠。また、textを通して、アメリカ社会の最新情報を知り、生きたアメリカの姿を知ってもらいたい。

〔教科書〕 *What's News (in the USA Today)*
(南雲堂) ¥1,200

〔参考書〕 開講時に指示します。

基礎英語 I A

坂 本 武

Tape使用を主体とする内容で、いわゆる「読んで訳して」ではない。毎時限、「書取り」(Dictation)を

実施し、いわゆるHearing (Understanding) の能力向上につとめたい。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語 I A

高 野 正 夫

基本的な文法を学習しながら、作文の演習を行なっていきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎英語 I B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided: in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基礎英語 I B

N. Readdy

In this class we will be using the audio-lingual method which entails the use of tapes (about 10 minutes each class) and class participation; both group and individual. The textbook we will be using is ENGLISH 900 which comprises the 900 essential sentences for

speaking everyday English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he or she can use them with ease as well as make substitute sentences. There will be two examinations each school year and all students are expected to attend both to receive a grade.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. BOOK 4.

基礎英語 I B

T. J. Wright.

This class will cover the four skills of the language comprehension. Students will be expected to try to understand and communicate in English. The class will be challenging and educational.

Textbooks to be announced.

基礎英語 II A

坂本 武

英検一級合格を目標とする英語総合力の養成につとめる。随時Tapeの使用をもってその効果を挙げたい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語 II A

東 雄一郎

ReadingとHearingの英語力の養成を第一の目的とする。対象とするtextはLongmans社刊行のEssential English Libraryの中の一冊であり、このtextを通してイギリスの歴史、文化、風物の理解を深めて欲しい。Dictationの機会を多くもつ。

〔教科書〕 A Short Social History of England (篠崎書林) ¥1,000

基礎英語 II A

高野 正夫

英文を読みながら、読む能力の増進をはかり、文法的な方面も注意していきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎英語 II B

N. Readdy

As we have all studied ENGLISH 900 last year, the textbook needs no introduction. However, this year, we will be using the same series but of a more advanced nature. As previously, all students are required to take two examinations during the school year in order to receive grade.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. BOOK 4.

基礎英語 II B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

専門教育科目

英語学概論

大沢 一雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、言語について研究する学問すなわち言語学の一部である。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語でEnglish philologyとかEnglish linguisticsといわれることは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、語彙(い)論、意味論、語源論、文体論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

成美堂 ¥900

〔参考書〕 開講時に指示します。

英文学史 I

荒井良雄

中世から18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品、有名な引用句などの解説を中心に講義します。

〔教科書〕 『イギリス文学案内』(朝日出版社)

英作文 I

岡田 尚

英文を書くことによって、英語の総合力の増進をはかりたい。積極的に発表し質問をして活気のある授業にしてほしい。テキストは教室で指示する。

英文学史 II

中岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austenらの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる喜びを共に味わいたい。

英作文 I

佐藤千春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を十分に養ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

米文学史

佐藤千春

一般にアメリカの歴史は17C.から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、18C.の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばり分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。

〔教科書〕 井上謙治編『アメリカ文学史入門』(創元社)

英作文 I

坂本 武

一般的散文、時事文および手紙文等について中広く採りあげる積りである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英語史

岡田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕 教室で指示する。

英作文 I

東 雄一郎

基本構文から応用へと、ある程度自己の感情、思想を自由に英語で表現できるようになるためのtrainingを行う。しかし、英作文はあくまでも four skills of English learning の一つであることを忘れずに。毎回、授業の始まりから20分間ほどの時間は、数問の小テストにあて、それを出席にかえる。授業に対する preparation は必要不可欠。

〔教科書〕 *Building Better English Sentences*

音 声 学

坂 本 武

「調音音声学」の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが本講義の内容である。今更発音の修正など…と思わず、英米文学科生として必須の科目であると考え、第一歩から徹底的に取り組んでほしい。英語の母音、子音からはじめて、各論に至るまでの知識を得てほしいものである。英語専攻の学生が、nativesの言うことが判らない、では困るので、英音、米音の区別等についても詳しくふれる。出欠は重視すると同時に、年間数冊のノートおよびTapeの提出を求める。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習（英作文Ⅱ） （57年度以前入学生：批評論研究）

坂 本 武

英作文に関する作法、表現等については、既に英作文Ⅰにおいてそれらの基礎力は充分涵養済みと思われるので、この演習では、更に応用面、実用面についての実力を身につけるよう望んでやまない。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習（英作文Ⅱ） （57年度以前入学生：批評論研究）

佐 藤 千 春

すでに英作文Ⅰで充分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

シェイクスピア

荒 井 良 雄

シェイクスピアの人生観と劇作術と言葉の魅力を、『夏の夜の夢』を中心に講義します。生涯と作品、批評史や上演史などにもふれながら講義を進め、『夏の夜の夢』以外の喜劇や悲劇からも引用しますので、特にシェイクスピアに関心の深い学生は、全作品を一冊に収録したThe Alexander Textを持つのが望ましいと思います。

〔教科書〕 『夏の夜の夢』（日本放送出版協会）

英文学演習Ⅰ（中世）

小 倉 美 知 子

中世後期文学を代表するチャウサーの作品、その中でも特に重要な『カンタベリー物語』のプロログを精読しながら、中英語（Middle English）に慣れ親しむことを狙いとする。ある程度読む速度がついた所で、後期にはプロログに続く騎士の話にはいる予定である。

基礎的・語学的な知識を習得することが第一目標であり、その上に立って、何故字句について、文脈について、あるいは表現方法に関して、様々な解釈の違いが生じ得るのかを考えてみたい。

〔教科書〕 Hodgson, Phyllis. ed. *Chaucer. General Prologue The Canterbury Tales*. Univ. of London, The Athlone Press, 1969. (¥770)
Bennett, J. A. W. ed. *Chaucer. The Knight's Tale*. 2nd ed. 1958; rpt. London: Harrap, 1976. (¥1,120)

〔参考書〕 Baugh, A. C. ed. *Chaucer's Major Poetry*. New Jersey: Prentice-Hall, 1963. (¥4,620)

英文学演習Ⅱ（英文学16・17C）

高 野 正 夫

Sidneyの*Astrophel and Stella*や、彼と親交のあった、Spenserの処女詩集である、*Shepherd's Calender*など、16世紀に流行した、恋愛ソネット集や牧歌集を中心に読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学演習Ⅳ（英文学18C）

小 林 亨

Oliver Goldsmithの唯一の小説であり「可憐な小古典」と云われるThe Vicar of Wakefieldを読む。作品中にみられる人間性、感傷性、ユーモアなどは、18世紀の特質を充分現わしているものであり、テキストも貴重なものが出ているので、受講生諸君も楽しめることと思われる。

〔教科書〕 『小英文学叢書』（研究社）¥980

英文学演習V (詩 19・20 C)

高野正夫

イギリスのロマン派の詩人、キーツ、ワーズワス、ブレイクを中心に読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学演習VI (小説 I 19 C)

中岡洋

『ジェーン・エア』や『嵐が丘』はあまりにも有名であるが、末娘のアン・ブロンテの小説は案外知られていない。このクラスでは彼女の第一作『アグネス・グレイ』を取りあげ、純心な乙女のlove storyのなかに当時の女性、特に女家庭教師の置かれた苦しい立場を勉強してみよう。現代にも通用する女性のやさしい心情をこの「英文学史上もっとも完璧な散文物語」のなかに見出してほしい。

〔教科書〕 Anne Brontë, *Agnes Grey* (Dent: London and Melbourne, Everyman's Library) Paperback.

英文学演習VII (小説 II 20 C)

飯島淳秀

英国現代小説の中篇又は短篇の精読・粗読の併用法を進めるが、毎回、学生に当てて読んでいくのを原則とする。前・後期にそれぞれ課題レポート(単位レポート)の提出が求められる。テキストは最初に指示する。

英文学演習VIII (批評 19・20 C)

東雄一郎

前期は主として詩に対する批評を試みる。物語的展開、描写的展開、論理的展開、理想的展開、ノンセンスの展開を示す典型的な作品を実際読み、「複合体」(the complex of meaning)の分析解明を主眼とする。また、T. S. Eliot, Matthew Arnold, Ezra Pound, I. A. Richard等の主要な論文をも合せて読みたい。

後期は小説の批評を扱う。E. M. Forsterの名著 *Aspects of the Novel*を読み、小説を構成する基本的な要因(story, people, plot, fantasy等)を考察する。

また、19, 20世紀の批評態度の変遷(批評史)もその

つどとりあげて行きたい。

〔教科書〕 『英詩の構造』(駿河台出版)
他はプリント。

〔参考書〕 開講時に指示します。

米文学演習 I (詩)

金関寿夫

現代アメリカ詩の代表作をフロストから最近の詩人に至るまで熟読し、時代精神の変化との関連においてアメリカ詩の特質を明らかにする。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 教場で示す。

米文学演習 II (小説 I)

岡崎寿一郎

アメリカ文学(小説)についての講義を通して文学が現代にもつ意味を探究してみたい。

〔教科書〕 教場にて指示する。

米文学演習 III (小説 II)

佐藤千春

「コンコードの哲人」と呼ばれたエマソンの若き日の悩みと苦しみ、いかに彼がこれを克服し、「自己信頼」にたどりついたか、その内面生活の軌跡を日記と作品を通して探ってみる。本年度は小説を扱わないので注意すること。テキストは授業開始時に連絡するが、プリントを使用の予定。

〔参考書〕 斎藤光『エマソン』(新英米文学評伝叢書)(研究社)

米文学演習 IV (小説 III)

田中剛

ヘミングウェイの『老人と海』と数篇の短篇小説を取りあげ、彼の特質を考える。

〔教科書〕 E. Hemingway: *The Old Man and the Sea* (南雲堂)
E. Hemingway: *The Short Happy Life of Francis Macomber & Other Stories* (南雲堂)

米文学演習V (批評)

赤祖父 哲 二

Ernest Hemingway: *Nick Adam's Stories* を読む。

〔教科書〕 Hemingway: *Nick Adam's Stories*, (朝日出版)

英米演劇演習

荒井 良 雄

アメリカの劇作家ウィリアム・インジのアカデミー賞シナリオ『草原の輝き』を読んでインジ入門としたあと、代表作『ピクニック』や『階段の上の暗闇』を読みます。

〔教科書〕 『スプレnder・イン・ザ・グラス』 (金星堂)

英文学特講 I (英文学 16・17 C)

石原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔参考書〕 教場にて指示。

英文学特講 II (英文学 18 C)

小林 亨

ここ数年、近代小説史を16世紀末より始めて講じて来たが、18世紀に時間が多く取れなくなってしまう為、本年度は18世紀をやや詳しく展望し、17, 6世紀へと溯って逆にイギリス近代小説の歩みを考究したい。なるだけ原文の一端に接したいので、コピーした英文を多く読むことになる。

〔教科書〕 「コピー」教室にて配布。

英文学特講 III (詩 19・20 C)

高野 正 夫

現在のイギリスの桂冠詩人である、Ted Hughesの第三詩集 *Wodwo* 以降の作品や、W.H.Audenの *Collected Shorter Poems* のなかから、後期の1948年から1957年までの作品を読んでいます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学特講 IV (小説 I 19 C)

中 岡 洋

市民階級の台頭によって19世紀には多くの女流作家が輩出されている。当時女性が置かれていた立場は当然彼女たちの描くヒロインの姿に映し出されているが、男性作家による女性群像も女性の生き方について多くのことを示唆している。教育、結婚、家庭、職業その他の面について19世紀には女性がどのような立場に置かれていたか、人間として生きることが社会の状況によっていかに条件づけられるか、また真に人間として目ざめるのがどういうことか、理解できればと思う。

英文学特講 V (小説 II 20 C)

飯 島 淳 秀

小説研究の方法、現代心理小説の分析、20世紀イギリス文学、特に小説・詩にみられる特徴等々について講義する予定。テキストは使用しない。前・後期にそれぞれ課題リポート(単位リポート)の提出が求められる。出席も重視される。

英文学特講 VI (批評 19・20 C)

武 田 勝 彦

ヨーロッパ批評史の概説を4月、5月で終了する。6月、7月は19世紀の英文学批評の特色を取りあげ、その具体例を示す。9月以降は20世紀批評に入り、英・米文学の主流となった批評を中心に講義を進める。特に、分析批評、深層心理学的批評、レトリック批評などを詳述する。批評の変遷、批評の基準などを通して、名作の鑑賞方法、アプローチの仕方などに関しても論述する。

〔教科書〕 『比較文学の試み』(創林社) ¥1,900

〔参考書〕 『基本文芸用語辞典』(荒竹書店) ¥1,500

米文学特講 I (詩)

東 雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。また、Edward TaylorにみられるMetaphysical Poetryの特質に関しては、イギリスのJohn Donneの作品に触れることにもなる。清教徒主

義の内向性と開拓者精神の外向性を常に遍在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、ModernismとPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕 金関寿夫編『*Sixteen Modern American Poets*』（英宝社）

〔参考書〕 金関寿夫著『アメリカ現代詩ノート』（研究社）

米文学特講Ⅱ（小説Ⅰ）

佐藤吉介

アメリカ文学——特に19世紀の作品、Mark Twain, Ambrose Bierce, Stephen Crane, Nathaniel Hawthorneなどを用いて英語文学の風土背景を講述する。

〔教科書〕 プリント

米文学特講Ⅲ（小説Ⅱ）

山縣敏夫

アメリカにおける黒人文化の歴史的発展を考察し、現代黒人文学の代表的作家・ボールドウィン（James Baldwin）、エリソン（Ralph Ellison）等を中心に、その作品研究を行う。

〔教科書〕 開講後指示する。

米文学特講Ⅳ（小説Ⅲ）

田中剛

マラマッドの『修理屋』を中心に、彼の長編小説を論じ、さらに時間的余裕があれば、アメリカのユダヤ系作家について概説する予定。

〔教科書〕 Bernard Malamud: *The Fixer*（英潮社ペンギン・ブックス）

米文学特講Ⅴ（批評）

佐藤吉介

アメリカ文学の作品を材料に使って批評の方法—分析、文体論、表現論、時間論—を習得せしめるように講述する。最近の言語記号論も考察に入れてみたい。

〔教科書〕 プリント

英米演劇特講

落合和昭

演劇の発達にはギリシャ悲劇以来現代にいたるまで、劇場の構造の発達と密接な関係がある。すなわち、演劇に対する考え方が変われば、劇場の構造が変わり、劇場の構造が変われば、演劇に対する考え方が変わる。そのため、このクラスでは、劇場の構造とその発達をとうして、ギリシャ悲劇の源となっていた宗教儀式の時代から現代にいたるまでの演劇に対する考え方の移り変りを考察する。

また、講義内容は劇場の写真や構造図が約三百あまりのっているイギリスのテキストを用い、あまり抽象的にならないように進めるつもりである。課題としては、英文のテキストを読んでもらい、レポートは一回に原稿用紙一、二枚程度のものを年間10回ぐらい提出してもらう。

英米語学演習（英語学）

大沢一雄

Good English, bad Englishとはどういうことか、とくに、口語体の英語について考えてみる。テキストには、いくつかのone-act playsと方言に関する論文を用いる。

英米語学演習（英語史）

繁尾久

英語の歴史を先史時代の背景から、OE, MEを通じ近代英語に至る約1500年の歴史を、音韻・形態・統語の各部門について、なるべく具体的に通観したい。

〔教科書〕 開講時指定

英米語学演習（英文法）

岡田尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習（英会話）

N. Readdy

In this class we will be using the audio-lingual method which entails the use of a tape

recorder (about 10 minutes each class) as well as class participation; both group and individual. The textbook we will be using in this class is ENGLISH 900 which comprises the 900 essential sentences for speaking everyday English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he or she can use them will ease as well as make substitute sentences.

There will be two examinations during the school year and all students are expected to attend both in order to receive a grade.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. BOOK 3.

英米語学演習 (英会話)

W. D. Hubbard

English conversation for third and fourth year students. English only will be used in class so you will learn English directly by hearing, speaking and using it. A variety of interesting methods will be used. Textbook will be decided at class time.

英米語学演習 (英会話)

T. J. Wright

This will be an intensive conversation class. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to SPEAK! in English. The class will be challenging—exciting and educational.

Textbooks to be announced.

英米文化

荒井良雄

英米文化を、思想、教育、映画、演劇、音楽、絵画などを中心に講義します。特に英米の映画文化に焦点を合わせて講義を進めます。

〔教科書〕 特定の教科書はありません。

〔参考書〕 『ブロードウェイ！ブロードウェイ』
(朝日新聞社)

時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにい
うと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass mediaすなわち
マスコミで用いられる英語である。

商業英語

青山則雄

前期は輸出取引の流れに沿ったテキストのモデル・ラン
ターを読み、貿易用語を解説する。また簡単なビジネス英
文の練習を行う。後期は正式なフォームで英文レターを
作成できるようにし、時間が許せば経済リポートの書き
方を指導する。

〔教科書〕 斎藤祥男著『国際貿易英語通信』(梓出
版社)

ラテン語特講

佐藤玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの
言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基
礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変
化に慣れることを目的としています。また平行して、や
さしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思
います。

〔教科書〕 『詳解ラテン文法』(研究社)

日本文化史 II

圭室文雄

日本文化史の流れのなかで、その支柱となっているの
は宗教である。とくに時代の思想の主導を宗教がになっ
た時期としては、大別して三つある。第一は鎌倉時代、
第二は江戸時代、第三は明治時代である。そこで本年は
この三つの時期に焦点を合わせながら、史料に拠って、
先人達の生きざまを検討してみたいと思う。そして、そ
の中から日本人の歴史における価値観をあきらかにした
い。

〔教科書〕 池田・大浜・圭室編『日本人の宗教の歩
み』(大学教育社)

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史 II』(山川出版
社)

現代美術

宮崎克己

1870年代のフランス印象派成立前後の様々な問題について考える。印象派を詳しく論ずるだけでなく、印象派が西洋の長い美術の伝統の中でどのような意味を持っていたか、また印象派が現代美術にどのような新しい道を拓かせたかを幅広く論ずる。出席者には、適宜、美術館、展覧会の見学を要求する。

地理学科

基礎教育科目

基礎人文地理学(今朝洞 重美)	99
基礎人文地理学(長野 覚)	99
基礎自然地理学(長沼 信夫)	99
基礎自然地理学(早船 元峰)	99

専門教育科目

人文地理学実習(今朝洞 重美)	99
人文地理学実習(桜井 正信)	99
人文地理学実習(長野 覚)	99
人文地理学実習(菱口 善美)	99
人文地理学実習(再クラス)(菱口 善美)	100
自然地理学実習(中村 和郎)	100
自然地理学実習(長沼 信夫)	100
自然地理学実習(高木 正博)	100
自然地理学実習(早船 元峰)	100
自然地理学実習(再クラス)(小池 一之)	100
野外巡検Ⅰ(小川 徹)	100
野外巡検Ⅰ(桜井 正信)	101
野外巡検Ⅰ(中村 和郎)	101
野外巡検Ⅰ(長沼 信夫)	101
野外巡検Ⅰ(長野 覚)	101
日本地誌Ⅰ(今朝洞 重美)	101
外国地誌Ⅰ(菱口 善美)	101
経済地理学Ⅰ(赤川 泰司)	101
郷土地理学(長野 覚)	101
集落地理学(小川 徹)	101
地形学Ⅰ(西村 嘉助)	102
地区学(高木 正博)	102
交通地理学(奥野 隆史)	102
地理学総論(小川 徹)	102
地理学総論(中村 和郎)	102
地理学総論(西村 嘉助)	102
野外巡検Ⅱ(今朝洞 重美)	102
野外巡検Ⅱ(小池 一之)	102
野外巡検Ⅱ(菱口 善美)	102
野外巡検Ⅱ(中村 和郎)	102
野外巡検Ⅱ(西村 嘉助)	103
野外巡検Ⅱ(早船 元峰)	103
野外巡検Ⅱ(高木 正博)	103
野外巡検Ⅱ(長沼 信夫)	103
日本地誌Ⅱ(生井澤 進)	103
経済地理学Ⅱ(生井澤 進)	103

地形学Ⅱ(今泉 俊文)	103
歴史地理学(桜井 正信)	103
人口地理学(上坂 修夫)	103
原書講読(梅原 弘光)	104
地質学(小池 一之)	104
土壌地理学(吉野(漆原)和子)	104
気候学(中村 和郎)	104
海洋学及び陸水学(長沼 信夫)	104
環境地理学(早船 元峰)	104
日本地誌Ⅲ(前期)(小川 徹)	
(後期)(中島 義一)	104
外国地誌Ⅲ(梅原 弘光)	104
都市地理学(今朝洞 重美)	105
計量地理学(奥野 隆史)	105
応用地理学Ⅰ(高木 正博)	105
応用地理学Ⅱ(今野 修平)	105
文化地理学(菱口 善美)	105
空中写真判読法及び測量学(小池 一之)	105
地理学特講Ⅰ(長野 覚)	105
地理学演習(小川 徹)	105
地理学演習(今朝洞 重美)	106
地理学演習(小池 一之)	106
地理学演習(菱口 善美)	106
地理学演習(桜井 正信)	106
地理学演習(中村 和郎)	106
地理学演習(長沼 信夫)	106
地理学演習(西村 嘉助)	106
地理学演習(高木 正博)	106
地理学演習(長野 覚)	106
地理学演習(早船 元峰)	106

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」,「考え方」とはどのようなものであるか, について事例を中心に説明する。

基礎人文地理学

長 野 覚

世界的視野において, 自然と人間活動の相関性を考えながら, 多彩な人文現象の基礎知識を, 系統地理的に講義する。テキストは下記のほか, 適宜プリントで補足する。受講に際して地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕 藤岡謙二郎著『五訂 人文地理学』(大明堂)

基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために, 自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し, 第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお, 参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕 『自然環境の生い立ち』(朝倉書店)
¥ 2,000

基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく, かつ, 人間と密接なかかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

人文地理学実習

今朝洞 重 美

地形図, 都市図を利用して土地利用, 宗教, 集落など人文地理学に関する実習を行う。

人文地理学実習

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが, とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は, そのつど指示し, 実習の成果をあげるようにする。

人文地理学実習

長 野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう, 土地利用図・地形段彩図・地形図模型などを作成し, 人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして, 各種の統計地図類を作成することにより, 主として人文現象の図化を習得する。

人文地理学実習

茨 口 善 美

開講時に指示する。

人文地理学実習（再クラス）

莢 口 善 美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

自然地理学実習

中 村 和 郎

自然地理学の基礎的な実習を行う。次の内容を予定しているが、実施の順序は変更することがある。

1. 計測（野外および机上で各種の計測を行う）
2. 統計処理（各種データの整理方法を学ぶ）
3. 地図化（主題図を作成する）
4. 読図（地形図の読図を行う）
5. 空中写真判読（空中写真から必要な情報を読む）
6. 地上写真撮影（地理的事象を写真で表現する）

自然地理学実習

長 沼 信 夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕 谷岡武雄ほか『新訂地理実習』（大明堂）
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

自然地理学実習

高 木 正 博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とし、その手段として各種の作業を実施してもらう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

1. 地形図、空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
 2. 各種統計資料の図化など、授業の進捗状況に応じて指示する。
- 評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

自然地理学実習

早 船 元 峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行う。

前期

- ◎図上作業（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）
 - ◎資料の収集・整理・分析の方法
 - ◎調査器械・器具の使用法
- 後期（班別）
- ◎粒度分析
 - ◎空中写真判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）
 - ◎水調査（湖水・河川水・地下水の水温、水質等）
 - ◎微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

自然地理学実習（再クラス）

小 池 一 之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査方法などについて実習を行う。必要に応じパーソナル・コンピューターによるデータ整理についても紹介する。実習内容（予定）

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理方法
3. 空中写真判読（含現地調査）
4. その他

〔教科書〕 貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会） ¥4,200

野外巡検 I

小 川 徹

開講後指示する。

野外巡検 I

桜井正信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

野外巡検 I

中村和郎

わが国の代表的な散村である砺波平野をとりあげる。事前に従来研究成果について勉強する。現地ではそれを自分の耳目で観察し、考え、討論を行って、自分の言葉でレポートにまとめる。

実施予定 6月下旬(3泊4日)

野外巡検 I

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時(ガイダンス4月11日)に報告する。

1. 巡検地域:新潟県魚野川流域(六日町)。
2. 巡検期日:昭和61年6月上旬,3泊4日で実施。
3. 巡検テーマ:自然環境と人々の生活。

野外巡検 I

長野 覚

四国地方を巡検する。6月初旬に現地で2泊3日の予定。学習のポイントは、瀬戸内海・屋島の自然、坂出製塩の現状、金刀比羅の門前町、讃岐平野の溜池灌漑(満濃池)、石鎚山(1982m)の山岳信仰、四国88カ所巡礼などから四国の地域性を考えたい。何れかの地点ではテーマを設定して簡単な調査を行う。

日本地誌 I

今朝洞重美

地誌学の本質論を考察しつつ、「日本」、「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕『日本の地域-新しい日本地誌-』
〒102 東京都千代田区富士見1-4-11
森北出版株式会社 TEL 03(265)8341

外国地誌 I

菱口善美

本講義では、『地域』の概念について述べ、次に具体的地域区分の方法を吟味し、さらに北米の「地誌」を概説する。都市の発生的、地域論的立場に重点を置く。

経済地理学 I

赤川泰司

経済地理学Iは、その内容を農業地理学においている。

1. 農耕文化の起源と発展、農業地域の形成と特色について、研究事例から概観する。
2. 農業地理学研究(学説史)を概観し、二、三研究論文を論評する。
3. 食糧問題、農業生産とアグリ・ビジネス、穀物メジャー、バイオテクノロジーと農業、生産緑地などにも触れたい。

〔教科書〕全体を通じてプリントで講義内容をまとめ、補足する。

〔参考書〕文献、研究事例(論説)をその都度紹介する。

郷土地理学

長野 覚

1. 国土面積の約3/4を占める山地の包蔵する山岳信仰文化の地域的特色を考察し、各自の郷土における山岳信仰を調査しレポートする。
2. 郷土の地域概念を理解するため、古代から現代に至る行政変化について学習し、各自で調査した成果をレポートする。

〔参考書〕『山岳宗教史研究叢書』(名著出版)
『地名大辞典』(角川書店)『日本歴史地名大系』(平凡社)

集落地理学

小川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

地形学 I

西村嘉助

地形学の基礎的な部分を講義する。宮力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

〔教科書〕 西村嘉助編『自然地理学Ⅱ』（朝倉書店）

地図学

高木正博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成・表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに、解説、利用法について講ずる。

授業内容に応じて作図実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えてほしい。

交通地理学

奥野隆史

現代の地域の発展動向は交通の良否によって左右されている。この交通について、(1)その本質、(2)地域的意味付け、(3)交通発達と経済立地の関係、(4)モデル解析という課題で平易に講義する。

〔教科書〕 テーフ・ゴージェ著・奥野隆史訳『地域交通論』（大明堂）¥2,000

地理学総論

小川 徹

詳細は開講直後に指示する。講義の趣旨は「地理を学ぶことは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も、このテーマに沿って、考えてみて欲しい。

旧科目（地理学研究法及び地理学史）未履修者はその対策について教務部担当者に相談すること。

地理学総論

中村和郎

「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆく。各自もこのテーマを十分考えてみて欲しい。

地理学総論

西村嘉助

詳細は開講直後に指示する。「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。

野外巡検 II

今朝洞重美

山陰地方（出雲、石見）の巡検を行う。実施時期は夏期休暇（7月）。

野外巡検 II

小池一之

地理学とくに地形学を中心とする野外実習法を学ぶ。本年はフィールドを北海道オホーツク海沿岸にとり、(1)現海岸における砂丘の発達と植生、(2)湖岸地形、(3)海成段丘とテフラ、(4)火山活動による地形変化、などをテーマとして巡検を行う。

〔巡検地〕 北海道サロマ湖付近

〔日 時〕 9月の第1週3泊4日

野外巡検 II

荻口善美

目的：地域の変貌についての実態把握

調査地：未定（ガイダンスの際に発表）

野外巡検 II

中村和郎

開講時に指示する。

野外巡検Ⅱ

西村 嘉助

初夏の数日間、東北地方の一地域を選び、終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形Ⅰを受講し合格した者でないと参加の意味がない。

野外巡検Ⅱ

早船 元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理学的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地等はガイダンスの際に発表する。

野外巡検Ⅱ

高木 正博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

今年度は琵琶湖南湖の地形と利水について調査したい。期日・内容については、ガイダンスの際に発表する。

野外巡検Ⅱ

長沼 信夫

開講時に指示する。

日本地誌Ⅱ

生井澤 進

日本の各地域を「文化誌」の観点から見つめてゆく。講義の内容は若干散漫になるが、「地域」というイメージが鮮明になるように心がけてゆく。

〔参考書〕『世界の地理—日本の部分』（週刊朝日百科）

経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地方における生産活動の中心となる工業生産について、産地形成という観点から分析、講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い、レポートを作成することを条件とする。〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

地形学Ⅱ

今泉 俊文

“動かざること大地のごとし”と言われるが、変動帯に属する日本の地形は、活発な地殻変動のもとで形成されている。変動地形を中心に講義を行う。

〔参考書〕貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）
笠原慶一ほか編『岩波講座 地球科学10』（岩波書店）

歴史地理学

桜井 正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

人口地理学

上坂 修夫

人口現象は、社会地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけではなく、質（構造）的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では、人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかわり合い方について考えていく予定である。

原書講読

梅原弘光

第三世界の農業変化の方向を把握するために、現代プランテーションに関する英語の地理学文献を選び輪読する。

〔教科書〕 H. Gregor, "The Changing Plantation", A. A. A. G., Vol. 55, No. 2 (1965), P. P. Cortenay, Plantation Agriculture (London, 1971)

地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕 ホームズ著・上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』(東大出版会) ¥3,400

〔参考書〕 ホームズ著・上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会) 各¥3,400
貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,200

土壌地理学

吉野(漆原)和子

土壌の生成について解説し、多くの土壌生成因子のうち、特に時間、気候、地形について詳しく考察する。さらに人為によって、土壌がどのように変わりつつあるかも考察する。

〔教科書〕 「地形と土壌」〔新地学教育講座9〕(東海大学出版会)

気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

夏休み直前にレポートの提出を求めるほか、小テストを3回実施する。

〔教科書〕 中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治『日本の気候』(岩波書店)

海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学(水文学)の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕 『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕(東海大学出版会)

『水文学』〔自然地理学講座3〕(大明堂)

『日本の水』〔環境と人間の科学4〕(三省堂)

環境地理学

早船元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用・水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

日本地誌Ⅲ

(前期)小川 徹
(後期)中島 義一

〔前期〕沖縄を中心とする地誌を文化地理学の立場から講義する。

〔後期〕歴史地理学上の諸問題を中心に講義する。対象地域は国内各地にわたる。地図帳を忘れずに持つてくること。

〔教科書〕 〔前期〕授業時に指示する。

〔後期〕矢守一彦『空からみた歴史景観』(大明堂)

外国地誌Ⅲ

梅原弘光

東南アジアを対象として、前半で地域全体の特性を概観、後半で特定の1国を取上げて地域的特徴を具体的に検討する。

都市地理学

今朝洞 重 美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕 山鹿誠次『都市地理学』（大明堂）

計量地理学

奥野隆史

地理的事象の計量的分析を説明する。講義の内容は、(1)データの入手と吟味と整理、(2)分布解析、(3)ネットワーク分析、(4)共変動分析、(5)拡散分析であり、実際の地理学研究の流れに沿っている。予備知識として中学校の数学を習得していれば十分である。

〔教科書〕 奥野隆史著『計量地理学の基礎』（大明堂） ¥2,400

応用地理学 I

高木正博

自然環境の変貌について、災害や各種の人為的な変化との関係からとらえる。また、河川の治水・利水に関する問題を、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕 西村嘉助編『応用地形学』（大明堂）
大矢雅彦著『河川の開発と平野』（大明堂）

応用地理学 II

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第三次全国総合開発計画を使用し、現行国土計画の内容を講ずる他、長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕 『第三次全国総合開発計画』『2000年の日本』

文化地理学

茭口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例

を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

空中写真判読法及び測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること（課題数は年間5-6）。また、対数、三角関数（数学I程度）の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は、自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

(1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定 (4)水準測量 (5)多角測量 (6)地形測量 (7)写真測量 (8)写真判読法 (9)リモートセンシング

〔教科書〕 〔前期〕小田部和司『図解土木講座 測量学』（技報堂出版） ¥2,800

〔後期〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会） ¥4,200

地理学特講 I

長野 寛

高等学校・中学校の社会科地理教員の採用試験を受験する者を対象とする。指導内容は1学年以来、学習した地理学の教科内容を整理・集約することに重点を置く。また、小・中・高校一貫した社会科教育カリキュラムに対応した受験が可能なように、地理以外の教科についてゼミ形式の補講を予定している。テキストはプリントを主体とするが、下記参考書も必備のものである。

〔教科書〕 『教育小六法』（学陽書房）・学習指導要領・日本国勢図会・高校地理教科書・中学校社会科教科書・地図帳

地理学演習

小川 徹

卒業論文の指導を中心にする。およその日程であるが、(1)春休みを利用することが前提なので、この点については別個にガイダンスを行う。(2)登録のためのテーマ決定・題目の検討 (3)調査資料・調査方法の検討 (4)秋学期に調査結果の報告と論述の検討。以上の日程にしたがって、各人少なくとも3回発表の必要がある。この規定は厳密に実施する。

地理学演習

今朝洞 重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学（人文地理学）に関する卒業論文の演習を行う。

地理学演習

小池 一之

前期：地理学調査方法（野外調査・文献調査）の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ。

後期：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

地理学演習

菱口 善美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に含まれる問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

地理学演習

桜井 正信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげるよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

地理学演習

中村 和郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理のし方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表のし方などについて指導する。

地理学演習

長沼 信夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理、調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。

出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告、中間検討会）を行う予定である。

地理学演習

西村 嘉助

卒業論文を作成する学生に対し、問題の設定・情報の収集・論理のたて方など、討論を主として指導する。

地理学演習

高木 正博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

地理学演習

長野 寛

卒業論文の作成を目標にして、前期は参考文献・資料収集・実施調査・成果の整理などの方法を指導する。後期は論文作成の進度に合わせて中間発表を行い、討論を重ねて内容を充実させ、完成までの指導をする。

地理学演習

早船 元峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成、現地調査、文献資料の収集、整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学(山口 一之).....	109
基礎歴史学(渡辺 惇).....	109
基礎歴史学(渡辺 直彦).....	109

専門教育科目

史学概論(椽川 一朗).....	109
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(杉山 博).....	109
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(木槻 哲夫).....	109
東洋史概説Ⅰ(阿部 肇一).....	109
東洋史概説Ⅱ(渡辺 惇).....	110
西洋史概説Ⅰ(椽川 一朗).....	110
西洋史概説Ⅱ(青木 道彦).....	110
考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎).....	110
考古学概説Ⅱ(外国)(量 博満).....	110
日本史学史(葉貫 磨哉).....	110
東洋史学史(阿部 肇一).....	110
西洋史学史(石川 澄雄).....	110
考古学史(平井 尚志).....	110
演習Ⅰ(葉貫 磨哉).....	111
演習Ⅱ(葉貫 磨哉).....	111
演習Ⅰ(杉山 博).....	111
演習Ⅱ(杉山 博).....	111
演習Ⅰ(箭内 健次).....	111
演習Ⅱ(箭内 健次).....	111
演習Ⅰ(所 理喜夫).....	111
演習Ⅱ(所 理喜夫).....	111
演習Ⅰ(吉田 常吉).....	111
演習Ⅱ(吉田 常吉).....	112
演習Ⅰ(山口 一之).....	112
演習Ⅱ(山口 一之).....	112
演習Ⅰ(渡辺 直彦).....	112
演習Ⅱ(渡辺 直彦).....	112
演習Ⅰ(阿部 肇一).....	112
演習Ⅱ(阿部 肇一).....	112
演習Ⅰ(渡辺 惇).....	112
演習Ⅱ(渡辺 惇).....	112
演習Ⅰ(石川 澄雄).....	112
演習Ⅱ(石川 澄雄).....	113
演習Ⅰ(椽川 一朗).....	113
演習Ⅱ(椽川 一朗).....	113
演習Ⅰ(加藤 晋平).....	113
演習Ⅱ(加藤 晋平).....	113
演習Ⅰ(寺島 孝一).....	113

演習Ⅱ(倉田 芳郎).....	113
演習Ⅱ(量 博満).....	113
日本史各説Ⅲ(土肥 鑑高).....	113
日本史各説Ⅳ(山口 一之).....	113
東洋史各説Ⅰ(古代)(宇都木 章).....	114
東洋史各説Ⅴ(近世)(吉田 寅).....	114
東洋史各説Ⅶ(近・現代)(渡辺 惇).....	114
東洋史各説Ⅷ(周辺史)(岡本 敬二).....	114
東洋史各説Ⅸ(周辺史)(光嵐 督).....	114
西洋史各説Ⅱ(石川 澄雄).....	114
西洋史各説Ⅲ(伏島 正義).....	114
西洋史各説Ⅳ(中村 道雄).....	114
西洋各国史Ⅰ(青木 道彦).....	115
西洋各国史Ⅱ(中井 和夫).....	115
西洋各国史Ⅲ(椽川 一朗).....	115
西洋各国史Ⅳ(石川 澄雄).....	115
考古学各説Ⅰ(清水 潤三).....	115
考古学各説Ⅱ(江坂 輝彌).....	115
古文書学(葉貫 磨哉).....	115
古文書講読Ⅰ(久保田 真継).....	115
古文書講読Ⅱ(有元 修一).....	116
日本史特講Ⅰ(古代)(渡辺 直彦).....	116
日本史特講Ⅱ(中世)(広瀬 良弘).....	116
日本史特講Ⅲ(中世)(杉山 博).....	116
日本史特講Ⅳ(中世)(芥川 龍男).....	116
日本史特講Ⅴ(近世)(土肥 鑑高).....	116
日本史特講Ⅵ(近代)(吉田 常吉).....	116
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之).....	116
東洋史特講Ⅱ(古代)(宇都木 章).....	116
東洋史特講Ⅷ(近世)(阿部 肇一).....	117
東洋史特講Ⅸ(近・現代)(渡辺 惇).....	117
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(吉田 寅).....	117
東洋史特講Ⅺ(周辺史)(岡本 敬二).....	117
東洋史特講Ⅻ(周辺史)(光嵐 督).....	117
西洋史特講Ⅰ(伏島 正義).....	117
西洋史特講Ⅱ(三小田 敏雄).....	117
西洋史特講Ⅴ(中村 純).....	117
考古学特講Ⅰ(高浜 秀).....	117
考古学特講Ⅲ(川又 正智).....	118
日本仏教史Ⅰ(圭室 文雄).....	118
日本文化史Ⅱ(圭室 文雄).....	118
西洋文化史Ⅰ(椽川 一朗).....	118
西洋文化史Ⅱ(三小田 敏雄).....	118
考古発掘実習(寺社下 博).....	118
考古学実習Ⅰ(写真)(斎藤 孝哉).....	118
考古学実習Ⅱ(記録)(前期)(田中 英司).....	118
考古学実習Ⅱ(記録)(後期)(酒井 清治).....	119
考古学実習Ⅲ(測量)(栗山 稔).....	119
考古学実習Ⅳ(調査)(田村 晃一).....	119
地誌学(今朝洞 重美).....	119
地誌学(長野 覚).....	119

地誌学 (渡邊 盾夫)	119
人文地理学概説 (高木 久)	119
歴史地理学 (桜井 正信)	119
哲学史 (川戸 好武)	119
歴史哲学 (國嶋 一則)	119
美術史概説 (林 良一)	120
西域美術史 (林 良一)	120
仏教美術 (林 良一)	120
中国歴史文学 (前期) (中村 璋八)	
(後期) (藤井 友子)	120
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	120
日本民俗学 (山折 哲雄)	120

歴史学

基礎教育科目

基礎歴史学

山口 一之

この科目は他学科の一般教育科目の歴史学に相当する。そこで、この時間では政治過程を主とする幕末維新史の講義を行うが、それを通じて歴史の見方、考え方の勉強をしてもらいたいと思っている。

基礎歴史学

渡辺 惇

歴史に対する基礎的な見方、考え方を養う上で、素材としてアジアの歴史（中国、インド、東南アジア、西アジア、内陸アジア）をとりあげ、これについて巾広く講義する。

〔教科書〕 松田寿男『アジアの歴史』（NHK市民大学叢書21）（日本放送出版協会）

基礎歴史学

渡辺 直彦

歴史学の方法論、補助学科、史料学、史料批判など、歴史を研究する上での基礎的な指針について論述する。

〔教科書〕 『歴史学研究法』（東大新書）（東京大学出版会） ¥600

専門教育科目

史学概論

椽川 一朗

歴史学的研究法とくに比較史的方法につき諸事例を挙げて講述する。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉山 博

室町時代の諸様相を各方面から検討してみたい。

〔教科書〕 脇田晴子著『室町時代』（中公新書776）（中央公論社） ¥600

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻 哲夫

近世・近代にわたる日本社会の発展を概観しつつ、研究史にもふれ、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。

〔参考書〕 『地方史研究必携』（岩波書店） ¥4,800 ほか

東洋史概説Ⅰ

阿部 肇 一

中国及び周辺史について、古代より唐・宋代までの政治・経済を中心とし、文化を加えながら概説する。必要に応じてノートを筆記する。

〔教科書〕 山崎 宏編『東洋史概説』（南雲堂深山社）

東洋史概説Ⅱ

渡 辺 惇

元・明・清代の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 授業の中で指示する。

西洋史概説Ⅰ

椽 川 一 朗

西洋古代より近代前期までの社会経済史および思想史を総合的に講義する。

西洋史概説Ⅱ

青 木 道 彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたつてはいなかった西欧世界が、なぜ近代工業化の先頭にあつて、他の文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を自分で選んで読み、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕 祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）

堀米庸三監修『西洋史展望』（晶文社）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1選目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

量 博 浩

中国および東南アジア地域における考古学を概観する。必ずしも時代を遡って祖述するのではなく、研究史を踏えたのちは、当該地域の先史学ないし考古学における今日の問題点をあげ、その吟味や検討を行うことによって、考古学という科学を理解しよう。なお、地域研究が人類史上の一般則の形成にどうかかわり、どんな寄与をなしているのか、と考えるのも講師の問題意識のひとつである。参考書は、講義中に適時示されよう。

日本史学史

葉 貫 磨 哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

東洋史学史

阿 部 肇 一

中国史における歴史思想の展開について。

西洋史学史

石 川 澄 雄

西洋史学の発達を、文化史の動きをからませて概観する。1年で完結する短い講義であるから、受講者は、西洋史概説の知識を十分にこなして出席されたい。プリント併用の予定だが、授業をとおして参考書類を指示、説明する。

〔参考書〕 『西洋史概説』で使用するテキストでよいから、概説書を必ず持参すること。

考古学史

平 井 尚 志

先ず考古遺物、遺跡についての古記録をのべ、17、18世紀に入るや欧州では古典文化、中近東の遺跡、遺物へ

の関心が高まり、時を同じくして日本でも石器類を採集し同好知識人間の意見開陳も初まった。大英博物館を始め欧州首都の博物館の創設、個人の収集品を中心とした研究が考古学前史となる。19世紀に入り進化論に刺激され、地質学の発達と相まって方法論と目的をもった学問としての考古学が逐次定着した。

本講は主として極東シベリア、中国東北地区、モンゴルの1世紀間に亘る日本人、外人学者による調査研究業績をのべ、今日日本考古学が深い関心を寄せているこの地域の学史と現況に及ぶ講述を行う。

演習 I

葉貫磨哉

『蔭涼軒日録』の文明17年7月より講述して、室町將軍の動静や時代思潮などを考える。また五山派のあり方を理解するために見学も行う。

演習 II

葉貫磨哉

鎌倉・室町時代の歴史を通観し、研究発表を通して卒業論文の指導も行う。

演習 I

杉山博

前半に引続き『快元僧御記』をテキストとして戦国大名の領国支配の具体相を検討してみたい。

〔教科書〕 プリント使用。『快元僧御記』

演習 II

杉山博

戦国期の諸相を追及し、あわせて卒業論文の指導を行う。

〔参考書〕 中央文庫『日本の歴史』11 戦国大名（中央公論社） ¥480

演習 I

箭内健次

近世史料の講読を通じ、史料の読解力、批判力を養うことを目的とする。史料は「本光国師日記」を用いる予定。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演習 II

箭内健次

近世史料を用い、史料の理解力、歴史的考察を養うことを目的とし、併せて卒業論文の指導を行う。

〔教科書〕 史料は協議の上決定をし、プリントを配布する。

演習 I

所 理喜夫

「東照宮御実紀」をテキストとして、江戸幕府創業史を追及する。テキストはプリントして配布する。

〔教科書〕 影写を配布する。

演習 II

所 理喜夫

受講者が専攻したい分野につき発表させ、それとの関係において卒業論文作成の指導を行う。

〔参考書〕 受講者ごとに指示する。

演習 I

吉 匠 常 吉

江戸末期の下級武士の手記により、その生活を考察する。読解力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。

演習Ⅱ

吉田常吉

「山本政恒手記」により、徒士の修業・勤仕の状態を考察する。読解力を養うため、手記原本を複写してテキストに使用する。なお併せて卒業論文の指導を行う。

演習Ⅰ

阿部肇一

二十二史劄記を主として、講読と発表。
〔教科書〕 プリント

演習Ⅰ

山口一之

毛筆書きの近代文書のコピーを使用し、史料の読解力と批判力をつけることに主眼を置き、一年間みっちり勉強するつもりである。教材については最初の時間に指示するが、下記の書物を用意して活用してもらいたい。

〔参考書〕 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（普及版）
（近藤出版社） ¥2,000

演習Ⅱ

阿部肇一

入唐求法巡礼行記。講読と発表。
〔教科書〕 プリント

演習Ⅱ

山口一之

下記の書物を使用して研究発表と討論を行う。各人のこれまでの勉強の程を示す時間である。

〔教科書〕 筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』
（東京大学出版会） ¥3,200

演習Ⅰ

渡辺惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分（漢文）を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演習Ⅰ

渡辺直彦

桓武天皇の延暦十五年（796）年七月条から、順次史料を講読する。

〔教科書〕 『日本後紀』（吉川弘文館） ¥2,000

演習Ⅱ

渡辺惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争の部分（現代中国文）を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演習Ⅱ

渡辺直彦

律令官制とその定員とを規定した「職員令」を講読する。

〔教科書〕 『令義解』（吉川弘文館） ¥3,200

演習Ⅰ

石川澄雄

西洋史、3年。テキストは英文から選びプリントで進行する予定。私の専攻から、中欧・ドイツ史中心に読む。山川出版社「世界史小辞典」のほか、できたら平凡社「カラー世界史百科」をも携行すること。

演 習 II

石 川 澄 雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので、該当者は必ず出席すること（出席重視）。モンテスキュー『法の精神』英訳本を輪読し、できれば他の古典にも及ぶ予定。

演 習 I

寺 島 孝 一

日本古代都城の成立と展開
古代日本における都城の成立と展開を、文献および発掘の成果から検討する。
〔教科書・参考書〕 必要に応じて紹介する。

演 習 I

椽 川 一 朗

ロック『市民政府論』（英語原典）の講読。（4年次卒業論文作成のための予備指導を兼ねる。）

演 習 II

倉 田 芳 郎

日本の弥生時代以降に関する考古学の報告書を1篇ずつ選ばせ、論評するか、あるいは資料を調べて補強させて、考古学の方法を身につけるように仕向けたい。あわせて、この時間を用いて、卒業論文作成の指導をする。年度第1週目の授業に必ず出席のこと。

演 習 II

椽 川 一 朗

ルソー『民約論』（フランス語原典）の講読、および卒業論文作成の指導。

演 習 II

量 博 浩

中国文化の基本的性格が形成されたのは、先史時代末期から夏商にかけてのころと考えてよい。そしてこの部分の研究は、今日の中国古代史研究のなかでもっとも議論の集中しているところでもある。そのなかで常に刺激的な研究を展開している研究者のひとりに張先道がいる。かれの幾編かの論文を読もうとおもう。テキストは現代中国語文であるけれども、演習は、これを日訳することではなく、あくまでも内容的把握が主眼である。
〔教科書〕 張先道『中国青銅時代』（1983年）
（三聯書店出版） ¥ 510 （東方書店）

演 習 I

加 藤 晋 平

Robin Dennell (1983) European Economic Prehistory. を講読する。講読資料は、授業時に配布する。

日本史各説 III

土 肥 鑑 高

江戸時代の元禄一天保期について、いわゆる三大改革を中心に講ずる。田沼時代や化政期についても再評価してゆきたい。
〔教科書〕 『改革の虚像』（秀英出版） ¥ 1,200

演 習 II

加 藤 晋 平

先土器時代及び縄文時代における生業活動に関する各種論文を、受講生とともに講読する。

日本史各説 IV

山 口 一 之

資料を通じて近代日本の問題点を把握するということを主眼とし、下記の書物を使用して勉強する。

〔教科書〕 筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』
(東京大学出版会) ¥3,200

東洋史各説Ⅰ(古代)

宇都木 章

楚文化研究。江南、華中の文化についての文献及び考古学的史料を解説し、それらについて現在どの様な研究が行われているかを紹介する。

東洋史各説Ⅴ(近世)

吉田 寅

明・清時代における中国史の発展を概説的に講述する。なお歴史的考察と関連しつつ、史料の解説を行い、明・清時代史研究への導入とすることを期している。

〔教科書〕 史料プリントを配布する。

東洋史各説Ⅶ(近・現代)

渡辺 惇

辛亥革命にいたる中国近代化の過程を、最近の研究をふまえて講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 講義の中で紹介、指示する。

東洋史各説Ⅷ(周辺史)

岡本 敬二

政治的にも文化的にも東アジアの歴史世界に多大な影響を与えていた中国の唐朝が衰退すると、契丹族や女真族などの諸民族が抬頭して、新しい歴史の展開がみられた。やがて蒙古族によって、世界史的な大帝国が建設され、東アジア歴史世界は大きく進転する。こうした問題について考察する。参考書は適時に紹介する。

東洋史各説Ⅸ(周辺史)

光 蔭 督

古代中国の思想と共にアジアの思想を代表する古代印度の思想、それは古代印度のヴェーダ学よりはじまり、ブラーフマナ、二大叙事詩を経てプラーナに至り、現代の印度教を大成させた宗教思想であるが、この宗教思想の一支脈として、原始佛教を成立させ、この佛教思想が中国を経由することにより、中国の思想、哲学を取り入れ、更に、日本に伝来して日本人の人生観と交って今日の日本佛教を形成して来た。この日本佛教の思想的原点となった印度の聖典とその神々について、文化史的に、思想的に解説を進め、日本佛教思想に、また日本人の生活態形にどのように影響して来たかを探るものである。

〔教科書〕 光蔭 督著『印度の聖典と神々』(成文堂)

西洋史各説Ⅱ

石川 澄 雄

開講時に指示する。

西洋史各説Ⅲ

伏島 正義

中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語の持つ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした物語を選んでみたい。そして、そうした物語がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にどのような物語を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。文献、関係論文(邦文、英文)、史料などを読みつつ、演習形式により授業を進めたい。テキスト、文献等は授業時に指示する。

西洋史各説Ⅳ

中村 道 雄

主として南北戦争以後のアメリカ合衆国の歴史を考察する。西洋史専攻者のみでなく、日本史・東洋史専攻の学生諸君の受講を希望する。

〔教科書〕 有賀貞・大下尚一編『概説アメリカ史』
(有斐閣) ¥1,800

〔参考書〕 ビーアド著『新版 アメリカ合衆国史』
(岩波書店)

西洋各国史Ⅰ

青木道彦

「イギリス・テューダー王朝と16世紀の国際関係」をテーマとして、主としてヘンリー7世・8世からエドワード6世、メアリ1世に至る時代を概観したい。(エリザベス1世時代は次年度に予定) 宗教改革の展開と絶対主義諸国の動向が重点となると思われるので、下記の文献の中から論文を一篇を選んで、読書レポートを課する予定である。

〔参考書〕『世界歴史14(近代1)』(岩波講座)

西洋各国史Ⅱ

中井和夫

ロシア史の講義。ロシア史の中から重要なテーマを選んで講義する。予定しているテーマは、キエフ・ルーシの建国、モンゴルの支配、ツァリズムの成立、ロシア農奴制、ロシア帝国の近代化など。

西洋各国史Ⅲ

椽川一朗

フランス思想史の講述およびパスカル『パンセ』(フランス語原典)等の講読。(4年次演習Ⅱの予備指導を兼ねる。)

西洋各国史Ⅳ

石川澄雄

ドイツ語テキスト使用、ドイツ史概観。プリント中心だが、テキストあればそれに従う(開講時に指示)。卒業年次生の卒論指導をも兼ねたいので、4年演習出席者は、卒論題目にかかわりなく、選択してほしい。

考古学各説Ⅰ

清水潤三

開講時に指示する。

考古学各説Ⅱ

江坂輝彌

東アジアの先史・原史時代の文化と日本列島の先史・原史時代の文化との文化交流について。

旧石器時代より、5, 6世紀の古墳文化の頃までについて講義を進める予定である。私の講義は最新の資料を使用し、最も新しい観点に立って、毎年新しい講義を展開してゆくので参考書類は全くない。随時プリントなどを配布する。

古文書学

葉貫磨哉

文章作成の目的、保存・伝来等の理由、文章・料紙・筆蹟等の観賞用に至るまで、古文書についての概括的な講義を行う。後期は演習も行う。

古文書講読Ⅰ

久保田真継

普段は菟角、活字などで読みがちな歴史資料としての古文書を、写真版で解読することにより、古文書に親しむことにつとめる。なおとくに中世古文書を中心に講読する。一応教科書を設定するが、随時コピーなども使用していきたい。

〔教科書〕『演習古文書選(古代・中世編)』(吉川弘文館) ¥1,400

〔参考書〕『古文書解読字典』(柏書房) ¥1,500

古文書講読Ⅱ

有元修一

幕府・藩・地方・町方史料など、近世古文書の解説を行う。特に、接する機会が多い地方史料に重点をおく。
〔教科書〕日本歴史学会編『演習古文書選（近世編）』（吉川弘文館）¥1,500
〔参考書〕『古文書解説辞典』（柏書房）¥2,500

日本史特講Ⅰ（古代）

渡辺直彦

撰関時代史——藤原兼家・道長・頼通を中心として——を講義する。
〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』（中央文庫）（中央公論社）¥640

日本史特講Ⅱ（中世）

広瀬良弘

中世における宗教と地域との関連という観点からの研究における代表的なものとして、一向一揆研究を含む真宗史研究が挙げられよう。しかし、全国各地に真宗のみが展開されたわけではない。したがって、中世の地域社会を考える場合、それ以外の宗教に関しても考察を加え、その上で、とらえなおしてみる作業が必要であろう。本講座では、禅宗の地方展開をみる中で、禅僧・禅寺が地域社会に果たした機能について考察し、中世社会解明の一助となるような作業を行いたいと思う。

〔参考書〕授業中に随時指示。

日本史特講Ⅲ（中世）

杉山博

戦国期の文書を使用して、戦国時代の諸相を追求する。
〔教科書〕中央文庫『日本の歴史』11 戦国大名（中央公論社）¥480
〔参考書〕プリント使用。

日本史特講Ⅳ（中世）

芥川龍男

「中世武士団」に就いて考察する。60年度に続いて、豊後大友氏に焦点をおいてみるが、関連して大友氏以外

の西国武士についてもふれる。

とくに教科書・参考書は指定しないが、講義中に紹介する参考文献などは積極的に読破してほしい。

日本史特講Ⅳ（近世）

土肥鑑高

近世は「米遣い経済」といわれている。そこで、米を軸としてその流通→統制の過程を考えるとともに、「天下の台所」といわれる大坂の市場構造にもふれてゆきたい。

〔教科書〕『米と江戸時代』（雄山閣出版）
¥1,800

日本史特講Ⅵ（近代）

吉田常吉

王政復古とその前後の政情について講述する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山口一之

近代日本の対外問題をとりあげて講義するつもりである。

東洋史特講Ⅱ（古代）

宇都木章

中国古代史概論、先秦時代から秦漢時代に及ぶ政治・社会・文化の一般的傾向を概説する。

東洋史特講Ⅷ（近世）

阿部 肇

近世の社会と宗教，主として宋代を中心として，近世社会の基礎となった構造と宗教とくに仏教についてのべる。

東洋史特講Ⅺ（近・現代）

渡辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として，秘密結社（会党，帮会）をとりあげ，その発生，発展，組織の特色，時代背景等について講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 講義の中で紹介，指示する。

東洋史特講Ⅻ（近・現代）

吉田 寅

明・清時代以降の中国キリスト教史を，中国文化史の流れの上において講述する。特にヨーロッパ文化の中国流入および，それに対する中国人の対応を中心に考察する。なお，講義の展開と関連しつつ，史料の解説を行い，より深い研究への手引きとする。

〔教科書〕 史料プリントを配布する。

東洋史特講ⅩⅣ（周辺史）

岡本 敬二

東北アジアにおける諸民族の間における経済的・文化的交通について，原史料を取り扱いながら，具体的に研究を進める。その際，歴史史料の取り扱いや基礎的な研究方法などについても，十分に考慮する。テキストは新しく作成する予定である。

東洋史特講ⅩⅤ（周辺史）

光 嶋 督

中国に世界的大文化国家を造り上げた唐王朝を最も苦しめたヒマラヤのチベット人王国吐蕃の歴史と，その吐蕃が印度の佛教を受け入れ，佛教を国教としていく過程及びそれに伴う，土着の宗教ボン教との関係を研討し，更に印度佛教の滅亡により，印度佛教最後の密教を受けつぎ所謂ラマ教と呼ばれるチベット佛教を作り上げて行

く状況を解説する。また独特なチベット佛教にみられるボン教的要素を，チベット佛教の進展過程に於てどのように取り入れて行ったかを研討するものである。

〔参考書〕 光嶋 督著『ボン教・ラマ教史料による吐蕃の研究』（成文堂）

西洋史特講Ⅰ

伏島 正義

西洋史を専攻する学生諸君は，将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは，平易な英文をテキストとして，西洋史の概説的知識を身につけるよう，演習形式をとる。新2年生および北海道教養部からの3年生で，西洋史を希望する学生は必ず出席すること。テキストは第一時限目に指示する。

西洋史特講Ⅱ

三小田 敏雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史の講義と重複する部分は省略して，各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

西洋史特講Ⅴ

中村 純

古代ギリシアの歴史は，そこに固有の国家形態であるポリスの形成と発展，そして衰退の歴史に他ならない。このポリス社会の政治的・文化的側面について考える予定である。

〔教科書・参考書〕 開講時指示。

考古学特講Ⅰ

高浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯には，紀元前8～7世紀以後，スキタイ系騎馬遊牧民文化，あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が広がっていた。講義では，これらの文化に関する諸問題を扱う。今回は特にオルドスの青銅器文化を中心にする予定である。

考古学特講Ⅲ

川 又 正 智

メソポタミア青銅器時代を中心に西アジア考古学の基礎的知識を学ぶ。あわせて西アジアからみたアジア史の流れを考えたい。

〔参考書〕 授業中に紹介する。

日本仏教史Ⅰ

圭 室 文 雄

日本仏教史の中で今年は江戸時代をとりあげてみたいと思う。江戸時代をとりあげた理由は、この時期こそが寺院の経営基盤となった檀家制度が形成されたからである。表面的にいえばまさに仏教が国教となった時代であった。そして現在も我々の生活の中にある檀家制度がどのような契機で作られ、一方寺院がこれをどのように利用したのか、それに応じ仏教の教義がどのように変質したのか、これによりキリスト教徒はいかなる差別をされたのか、民衆が仏教に求めた本当の信仰は何なのか、等について史料に拠りながら検討を重ねてみたいと思う。

〔教科書〕 圭室文雄『江戸幕府の宗教統制』（評論社）

〔参考書〕 下出積与『日本史における民衆と宗教』（山川出版社）

日本文化史Ⅱ

圭 室 文 雄

日本文化史の流れのなかで、その支柱となっているのは宗教である。とくに時代の思想の主導を宗教がになった時期としては、大別して三つある。第一は鎌倉時代、第二は江戸時代、第三は明治時代である。そこで本年はこの三つの時期に焦点を合せながら、史料に拠って、先人達の生きざまを検討してみたいと思う。そして、その中から日本人の歴史における価値観をあきらかにしたい。

〔教科書〕 池田・大浜・圭室編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 笠原一男編『日本宗教史Ⅱ』（山川出版社）

西洋文化史Ⅰ

椋 川 一 朗

西洋都市史とくにドイツ中・近世都市史の講述。

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

今年度はギリシア・ローマの文化を取り上げる。今日われわれがギリシア文化と呼んでいるものは、いつごろから現われたのか、そしてその特質はどんなものか、をできるだけ翻訳史料をあたりながら調べ、遺跡や彫刻を通じて確認してみる。ローマ時代にオリエントの影響が増大し最後にキリスト教の伝播によって、中世文化が生まれるところまで講義する予定である。教科書および参考書は開講時に指示する。

考古発掘実習

寺社下 博

野外における考古発掘実習を行う。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

考古学実習Ⅰ（写真）

斎 藤 孝 哉

写真撮影技術および処理技術の基礎を習得することを目的とし、主として考古資料写真に必要なと思われる技術を実施。実習、演習を交えながら、解り易く講義する。

1. 写真プロセスの基礎と写真用語
2. 撮影技術の基礎
3. 現像処理
4. 考古資料写真撮影の基礎
5. カラー撮影
6. 大型カメラの操作
7. ライティング
8. その他

〔教科書〕 プリントテキスト配布。必要によりその都度プリント配布。

考古学実習Ⅱ（記録）前期

田 中 英 司

石器研究の基礎である石器実測図についての講義を行う。石器の研究史と実測図の歴史、石器制作と打撃の原理、投影法、表現法等の基本的知識と、それをふまえた実技を通して、考古資料の記録と観察法を学ぶ。

〔教科書〕 なし。

〔参考書〕 『図録石器の基本知識Ⅱ・先土器（下）』（柏書房） ¥2,000

考古学実習Ⅱ（記録）後期

酒井清治

出土遺物である「もの」の調査は考古学の基本であるとともに、その後の研究の基礎資料となる。出土遺物の一つである土器を通して、実例の目的および基礎技術、観察の方法などを理解できるようにする。

〔参考書〕 大井晴男『野外考古学』（東京大学出版会）『発掘調査の手びき』（国土地理協会）服部敬史『発掘と整理の知識』（東京美術）

考古学実習Ⅲ（測量）

栗山稔

遺跡調査等において必要となる測量の基礎知識と技術取得、特に後者に重点を置き講義・実習を行う。夏休みに3～4日の集中実習に参加することが必要である。

〔教科書〕 植原毅著『測量の基礎』（山海堂）

考古学実習Ⅳ（調査）

田村晃一

考古学上の調査に関する基礎的な事柄について。

地誌学

今朝洞重美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学

長野覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習す

る。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

地誌学

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について日本地誌と比較しながら講義する。受講希望者は地図帳を持参して下さい。

人文地理学概説

高木久

地理学の思想・歴史を述べ、歴史地理学の立場から人文地理学の方法論を考察する。

「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める

歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

哲学史

川戸好武

はじめに、古代ギリシャおよび中世の哲学の要点を簡単に述べた後で、ルネッサンス以後の近世哲学史を概説する。

教科書、参考書は、授業の際に指示する。

歴史哲学

國嶋一則

歴史哲学とは、歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって、われわれは「いかに生き、何を行為すべ

きか」を学ぶのである。そこで、次のような歴史についての反省や考察をする。

- I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述。
〔1〕 a.文章の選択, b.記録命題, c.還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述, 〔2〕 a.歴史を動かす意志, b.表現。
〔参考書〕 その都度示す。

美術史概説

林 良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良一

アフガニスタンより東西のトルキスタンにいたる西域美術を、化教美術の東伝を中心に、各地の遺跡および遺品について講述する。現地の遺構や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

- 〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社） ¥2,200

仏教美術

林 良一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

- 〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社） ¥2,200

中国歴史文学

(前期) 中村 璋 八
(後期) 藤 井 友 子

中国では夙に佚し、日本にのみ伝存した五行大義を、平易な解説を加えながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、奈良朝より江戸時代に至るまでの陰陽道、仏教、神道、医学、国文学、年中行事、民間信仰など多方面の日本文化に大きな影響を及ぼした説で、国文学や

日本史、東洋史を専攻する人々には必読のものである。
〔教科書〕 中村璋八『五行大義校註』（汲古書院）
¥3,000

ラテン語特講

佐 藤 玖 美 子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

- 〔教科書〕 『詳解ラテン文法』（研究社）

日本民俗学

山 折 哲 雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

- 〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

社会学科

基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)	122
社会福祉概論(高橋 重宏)	122
心理学概論(篠原 英壽)	122

専門教育科目

社会統計学(指田 隆一)	122
社会学史(安藤 喜久雄)	122
社会学方法論(金丸 由雄)	123
社会調査(川本 勝)	123
社会調査実習(川本 勝・坪井 健)	123
マスコミュニケーション(川本 勝)	123
産業社会学(安藤 喜久雄)	123
都市社会学(岡田 真)	123
家族社会学(山根 常男)	124
法社会学(小林 弘人)	124
宗教社会学(門馬 幸夫)	124
社会心理学(坪井 健)	124
社会病理学(中本 博通)	124
外書講読Ⅰ(金丸 由雄)	124
外書講読Ⅱ(坪井 健)	124
社会学特講Ⅰ(橘爪 敏)	125
社会学原論(渡辺 源樹)	125
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	125
図書館学Ⅱ(源 昌久)	125
社会保障概論(藤井 康)	125
社会福祉法制(小林 弘人)	125
社会福祉方法総論(高橋 重宏)	126
社会福祉実習Ⅰ(高橋 重宏)	126
公的扶助論(近藤 功)	126
障害福祉論(原田 信一)	126
老人福祉論(奥山 正司)	126
児童福祉論(原田 信一)	126
母子福祉論(林 千代)	127
医療社会事業論(春見 静子)	127
地域福祉論(岡田 真)	127
社会福祉事業発達史(林 千代)	127
社会福祉管理運営論(重田 信一)	127
福祉外書講読(岡田 真)	127
リハビリテーション論(原田 信一)	128
社会福祉調査論(小林 昭二)	128
ケースワーク論(高橋 重宏)	128
グループワーク論(松本 栄二)	128
海外社会福祉論(星野 貞一郎)	128

社会福祉学特講Ⅰ(高橋 重宏)	128
社会福祉学特講Ⅱ(星野 貞一郎)	129
社会福祉学特講Ⅲ(星野 貞一郎)	129
社会福祉実習Ⅱ(原田 信一)	129
障害児教育方法論(井田 範美)	129
障害児教育原論(井田 範美)	129
心理学史(萩野 源一)	129
心理統計学(篠原 英壽)	129
心理学実験(実習)(篠原英壽・谷口泰富)	130
心理学研究法(堀 耕治)	130
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)	130
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英壽)	130
基礎心理学Ⅳ(社会)(水原 泰介)	130
基礎心理学Ⅴ(臨床)(中村 昭之)	130
心理学研究Ⅰ(実習)(萩野 源一)	130
心理学研究Ⅱ(実習)(水原 泰介)	130
心理学研究Ⅲ(実習)(中村 昭之)	130
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英壽)	131
心理学研究Ⅵ(実習)(谷口 泰富)	131
生理心理学(谷口 泰富)	131
児童心理学(天野 珠子)	131
産業心理学(大塚 秀治)	131
グループ・ダイナミックス(坂原 明)	131
カウンセリング(鈴木 順一)	131
心理検査法(森山(梅田)敏文)	132
禅心理学(脇本 平也)	132
心理学特講Ⅰ(佐々木 雄二)	132
心理学特講Ⅱ(佐々木 宏幹)	132
心理学特講Ⅲ(古賀 義亮)	132
精神医学(柴田 出)	132
社会政策(光岡 博美)	132
民法(青山 尚史)	133
労働法(平岡 一實)	133
行政法(鷓徳 啓登)	133
経済原論(浅野 克巳)	133
青少年問題研究(和田 謙寿)	133

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論

坪 井 健

社会学は、多くの人にとって初めて出会う学問である。「社会学とは何か?」。この問いに答えることは難かしいが、要は私たちの日常的な様々の社会経験を社会システムとの関連で理解するための知的枠組の1つであると言える。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的な諸事象に対する社会的な見方を獲得することを主眼とし、当初は社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸現象を選択的に分析していく中で、社会的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕 『新版社会学概論』『統計からみる社会学』（学文社）

社会福祉概論

高 橋 重 宏

戦後、制度としての社会福祉が整備・体系化され、社会福祉は日常生活の中で必要不可欠なソーシャル・システムとなった。だが、数年来、国家財政の窮迫化を主因に、財政再建という流れの中で社会福祉の見直し、補助金の一括カットが実施されており、日本の社会福祉は危機的状況にある。

このような現実をふまえつつ、本講義では、まず、社会福祉の基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、歴史的展開過程、しくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と、現代的課題について、一応の体系的理解ができるようにつとめたい。

〔教科書〕 1) 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）
2) 仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）
3) 『国民の福祉の動向』昭和60年版（厚生統計協会）

心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概論』（八千代出版）

専門教育科目

社会統計学

指 田 隆 一

社会学や社会調査では、統計学を利用することが多い。本講義では、パソコンを援用し、統計学の基礎的な知識とテクニックについて説明する。主な内容は、(1)パソコンの動かし方、プログラミング、(2)サンプリングのやり方、(3)表、グラフ、分布、(4)代表値、散布度、相関関係、(5)サンプリング理論、(6)検定、推定、(7)回帰分析、(8)多変量解析である。

実際にパソコンを利用し、計算、製表・製図を行って統計学を身につけることが大切なので、出席、レポートは厳しくチェックする。

〔教科書〕 西平重喜、1985、統計調査法、培風館
〔参考書〕 パソコン教育研究会、1983、標準版BASIC/基準編、学習研究社

社会学史

安 藤 喜 久 雄

社会学の形成、発展の歴史を概観する場合、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカの諸国を中心にして足跡をたどるのが一般的である。社会学の史的発展を学ぶということは、各国各時代の歴史的背景の中で社会学の諸問

題が生成、発展していることから、それが現代社会の諸問題とどのようにかかわっているかを知ることには大きな意味がある。これらの点を考慮に入れながら講義を進めていきたい。

〔教科書〕 阿閑・内藤編『社会学史概論』（勁草書房）

社会学方法論

金丸由雄

日常生活及び科学的活動を理解する為に、日常的行為系のモデル（DAS）と科学的行為系のモデル（SAS）を使って、種々の実例を考察してみることにする。

社会調査

川本勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点やデータ蒐集の技法、データの読み方、検定の仕方などを検討する。

社会調査実習

川本勝・坪井健

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひとつとおり理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータも併用する予定である。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的であるので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕 その都度指示する。

マスコミュニケーション

川本勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程に

いたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕 竹内・児島編『現代マス・コミュニケーション論』（有斐閣）
川本勝著『流行の社会心理』（勁草書房） ¥2,300

産業社会学

安藤喜久雄

次に諸点を中心に講義を進めたい。

1. 経営者研究の視点
2. 大企業の組織と管理
3. 従業員と職場集団
4. 大企業体制下の労働者意識
5. 労働者と職場組織
6. 労働者と生活福祉
7. 末組織労働者
8. 現代社会と労働組合
9. 技術革新と労働者

〔教科書〕 問宏・北川隆吉編『経営と労働の社会学』（東大出版会）

都市社会学

岡田真

「おらが町の中心に工場が出来る!!」.ピックリした住民は、「基本構造」策定への住民参加を請求した。その基本構造とは、何であるのか。

① 都市計画（基本構想等）は必ず本講のテーマになる。社会学専攻生にはそれが「就職に売込める専門性」の一つだからだ。そのソーシャル・プランニングは日本ではまだ弱体。あなたの専門性への期待は大きい。

日本の福祉も、行政責任が都市計画上に明記されて、はじめて現実のものとして実施される。輸入福祉学用語としてのソーシャル・プランニングでなく、現実の福祉計画を学習すること。これが福祉学専攻生の専門性に対するの寄与だ。さて、①に続いて

② 基本的諸概念、日本の都市化の特性の明確化。

③ 最新の学界動向。ちなみに昨年は、「都心再開発と急進ソーシャルワーク」に関するFrbedlandの研究に検討をくわえた。

学問は「遊び」の要素も含むものではあるが、同時に「メシの種」にもならねばならない。そして、本学出身

公務員にはなぜか、福祉部に配属されるや否や「魚が水を得た働き」をする人が多い。それであるから、あなたもおなじ担当者の「地域福祉論」(社選択単位・社福資格単位)をあわせて知ってくれることが望ましい。

(もちろん本講義だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)。

〔教科書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

〔参考書〕 岡田 真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)。他に最新の文献や入手困難な文献(コピーによる)

家族社会学

山根常男

1. 家族とは何か?
2. 結婚と家族の歴史
3. 現代の家族問題
 - a 夫婦の問題
 - b 子供の問題
 - c 老人の問題
4. 家族の未来

〔教科書〕『家族の論理』(垣内出版) ¥2,600

〔参考書〕『ゆれ動く現代家族』(日本放送出版協会) ¥1,100

法社会学

小林弘人

前期は、法社会学の基礎理論(学説の説明が中心になる)の解説。後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 及川 仲著新版『法社会学入門』(法律文化社)

宗教社会学

門馬幸夫

宗教社会学を名実ともに打ち立てたのはM・ウェーバーおよびエミール・デュルケムと言ってよい。本講義では時間の許す限り彼らの著作を通して、その宗教社会学の方法や課題を追求する。特に、前者では『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』等の著作を中心に、後者では『宗教生活の原初形態』等を中心に見て、宗教社会学の見方や方法論、課題というものを学習する。

〔参考書〕『プロテスタンティズムの倫理と資本主

義の精神』上・下(岩波文庫)

『宗教生活の原初形態』上・下(岩波文庫)

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔参考書〕 講義の中で指示する。

社会病理学

中本博通

人格、家族及び地域社会の社会病理についての講義を行う。まず、社会病理とは何かを明らかにし、ついで、人格の社会病理(人格論、社会病理現象、一自殺、少年非行、犯罪、家出、浮浪、薬物中毒等)家族の社会病理(離婚、家庭内紛争、保育問題、老人問題等)及び地域社会の社会病理(スラム、都市公害、住宅問題、交通問題、過疎問題等)の順で論じたい。

〔教科書〕 未定。

〔参考書〕 中本博通編『社会病理と社会問題』(旺紀書房)大橋薫編『社会病理学』(有斐閣)

外書講読Ⅰ

金丸由雄

講読する英文は易しすぎても難しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

外書講読Ⅱ

坪井健

外書講読Ⅱは、原書(英文)の講読を通して社会的なものの見方や考え方を深めることを目的とする。具体

的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講 I

橋 爪 敏

本講では、政治社会学的諸問題について取り扱うことになる。政治社会学は、政治現象について社会学的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象としての人間諸関係の政治的側面とそれ以外の社会的諸側面との関連が問題となってくる。そこで、政治社会学とは何かを問うことを始め、大衆民主主義社会の状況、大衆とエリート、政治（社会）運動、政治的社会化といった諸問題を論ずることとしたい。“特講”と名づけられているが、講義という形式よりも、参加学生諸君の主体的研究を促す意味において、文献の講読ならびにディスカッションを中心として授業を行うことになる。

〔教科書〕 未定。

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

図書館学 I

山 崎 慶 子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か。どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命か役割への理解を深めるようにしたい。前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学 II

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、「図書の整理」、「図書の選択」、「図書以外の資料の利用」が主として論ぜられる。前期には、図書の目録・分類（資料組織法）に関する概念的フレーム・ワークおよび組織化のための基本的規則についてのべる。後期には、学校図書館での図書選択の基準、方法、目的を講述し、つぎに、図書以外の資料の利用方法を解説する。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 新版予備版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 新版予備版 追録および修正』（日本図書館協会）

社会保障概論

藤 井 康

先ずわが国制度を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を取り上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕 小沼正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）、社会保障研究所編『経済社会の変動と社会保障』（東京大学出版会）

社会福祉法制

小 林 弘 人

本講義は、憲法 25 条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会福祉の法を考える』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人編著『社会福祉の法を考える』（川島書店・61年3月刊行予定）

〔参考書〕 小川政彦著『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

社会福祉方法総論

高橋重宏

今日の社会福祉は、福祉サービスの提供者と利用者のあいだの対人的・非貨幣的支援活動のもつ比重が高まっている。本講義は、社会福祉実践の専門技術（skill）の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、ソーシャル・ワーカーの専門性、現代社会におけるその独自の社会的機能等を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。さらに、臨床事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての専門職業的倫理観や基本的姿勢についても追求したい。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）

〔参考書〕 必要に応じて指示する。

社会福祉実習 I

高橋重宏

社会福祉実習は、社会福祉を学びソーシャル・ワーカーとしての専門性を体得していくために必要不可欠で、極めて重要な科目である。具体的には、修得しつつある社会福祉の専門科目の理論や基礎知識と技術（skill）を、社会福祉機関や施設での実践体験と統合化させつつ深め、社会福祉実践のための専門性を修得したソーシャル・ワーカーに一歩ずつ迫ることになる。

配属された実習の場で、社会福祉の理論や基礎知識、技術の有効性、妥当性を検証したり、現場の実態や今後の課題、自己の卒業論文のテーマ（問題意識）を探るための貴重な体験の機会として、積極的・主体的に活用してほしい。

- 〔教科書〕 1) 大島 侑編『社会福祉実習教育論』（海声社）
2) 仲村優一・岡村重夫・阿部志郎編『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）
3) 『社会福祉六法』（第一法規）

公的扶助論

近藤 功

開講時に指示する。

障害福祉論

原田 信一

主として、わが国における心身障害児（者）福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論入門』（改訂版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄著『心身障害児（者）福祉』（田研出版）

老人福祉論

奥山正司

老後・老人問題は、社会の変化を背景にして、その発生するプロセスと性格によって、大きくわかれる。すなわち、それは、老化に伴う経済的ニード、身体的ニード、精神的ニードとそれに対応する家族的扶養の不十分さからくる問題である。老人福祉対策は、それらの問題に対して、施設福祉対策と在宅福祉対策が、不十分ではあるが対応している。

講義の内容は、上記の点をふまえながら、老人問題の発生過程をマクロな視点とミクロな視点から明らかにし、そのうえで、老人福祉対策の過去から現状、さらには今後のあり方を考えることにする。

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 随時紹介する。

児童福祉論

原田 信一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとはばかりはいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく出現し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業（児童福祉法など）の関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』（川島書店）

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス・施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。それは、いわば婦人問題の集約であり、施策の最も具体的な対応がせまられる状況である。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。(1)婦人(母子)福祉への歩み、(2)母子家庭とは、(3)母子家庭の生活実態とその困難、(4)母子福祉施策の現状と問題点。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時紹介。

医療社会事業論

春見 静子

1. 医療制度の中での医療社会事業の位置づけを保健所、病院、施設それぞれについて考える。
2. 疾病がもたらす心理、社会的負担について考察する。
3. 援助を行うための社会資源にはどのようなものがあるか。関係法規とその適応を検討する。
4. 医療社会事業の方法について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの実際を学ぶ。

〔教科書〕 野村 茂他『医療社会事業の実際』(光生館)

地域福祉論

岡田 真

CO(コミュニティ・オーガニゼーション)に時間配分の重点を置く。COはケースワークやグループワークと並んで福祉三大技術の一に位置するものであるから、「社会福祉方法総論」と極力同時に履修すること。

COの実体は、「地域の根廻し」の技術である。ただし、その適用はコミュニティ・ケアの展開、福祉計画充実などのためにであらねばならない。

他大学には「地域福祉論」で、福祉現実の地域的分析を行う所もある。そして、福祉現実の科学的認識なくしては、ソーシャル・ワークはカラ廻りをしてしまう。だが本学ではその指導は都市社会学の一部で行う。

公私の専門福祉活動は、自治体の公的計画に組込まれてこそ、オーソライズされるわけだが、ソーシャル・プランニングについても、都市社会学で講ずる。

従って同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってほしい。もちろん本講義だけを履修する人

に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)。

〔教科書〕 岡田 真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

太田義弘・佐藤豊道編『ソーシャル・ワーク』(海声社)

他に最新の文献や入手困難な文献(コピーによる)

社会福祉事業発達史

林 千代

いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に(部分的に米国にもふれる)社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 今岡他編『社会福祉事業発達史』(ミネールヴァ書房)

〔参考書〕 随時紹介。

社会福祉管理運営論

重田 信一

わが国における社会福祉実践の実態分析から、福祉政策、行政、財政、福祉施設運営、地域住民の福祉活動のあり方等を検討し、その総合化の方向について考察を加えたい。なおこの講義においては、その前提としてのわが国における社会福祉実践の時代的展開の特徴、および欧米の類似制度・実践との比較検討もあわせ行いたい。

本講義の履修は、これから社会福祉の学習に入ろうとする学生諸君の事情も考慮しておるので、念のため附記しておく。

〔教科書〕 プリント(教室にて無償配布する)。

〔参考書〕 多数あり、講義の進行に沿って紹介する。

福祉外書講読

岡田 真

第一案：履修者各々が選んだ文献について、それぞれの履修者ごとに個別指導。この場合には、それぞれの文

状の選定に関しても、要請があれば、アイデアを提供する。

第二案；「地域の根廻し」(C. O.)は、どのように実施すれば具体化するものであるかを考える。この場合には、担当者の下記著作の「本論」(第Ⅱ部)のネタを公開する。

昨年は、「黒人英語をワーカーは使えねばならない」という結論の論文をとりあげた。(生活モデル派の論文) 評価のためには、講読した諸論文のうちの一つについて、レポートを提出してもらった。

〔教科書〕 両案いずれの場合にも、原文をコピーにとる場合が多かろう。

〔参考書〕 岡田 真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

社会福祉調査論

小 林 昭 二

この講義では社会福祉を考えてゆくのに必要な、調査と統計に関する知識と技法を説明する。

社会福祉に関する調査統計は、人口をはじめとし一般の世帯や、高齢者世帯、生活保護需給世帯、身体障害者などの特定のニーズを有するものなど、範囲がきわめて広い。

このような調査の実施や統計の分析が、どのようにして実証性と客観性をもち得るかを、具体的に取扱う。

〔教科書〕 新版『厚生統計ハンドブック』(厚生統計協会)

〔参考書〕 『国民の福祉の動向』(厚生統計協会)

ケースワーク論

高 橋 重 宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の1つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、ソーシャル・トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが、一応体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

〔教科書〕 1) 久保絃章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』(川島書店)
2) 仲村優一編『ケースワーク教室』(有斐閣)

グループワーク論

松 本 栄 二

開講時に指示する。

海外社会福祉論

星 野 貞 一 郎

社会福祉を理解するためには、世界各国がそれぞれの国情に応じて発生させてきた社会福祉のすぐれた制度や活動を学ぶことが大切であることをふまえ、以下の海外諸国の社会福祉事情について講義することにしたい。

(1)イギリスの社会福祉、(2)アメリカの社会福祉、(3)北欧諸国の社会福祉、(4)西ドイツの社会福祉、(5)フランスの社会福祉、(6)オランダの社会福祉、(7)カナダの社会福祉等。

〔教科書〕 国際社会福祉協議会日本国委員会編『各国の社会福祉』(全国社会福祉協議会 1983年)

社会福祉学特講Ⅰ

高 橋 重 宏

本年度は『面接技法』の体得と『自画像——ソーシャル・ワーカーとしての自己覚知(self-awareness)』の深化をとりあげる。

学生の主体的・積極的参加を求めるので留意すること。
なお、『社会福祉方法総論』の単位を取得し、『ケースワーク論』の単位を取得しているか、又は取得中の学生の履修を原則とする。

テキスト・臨床事例は必要に応じて指示する。

社会福祉学特講Ⅱ

星野貞一郎

社会福祉調査事例を学ぶことによって、社会福祉に関する調査技術を実際に即し具体的に体得する。

〔教科書〕 その都度プリントを配付する。

社会福祉学特講Ⅲ

星野貞一郎

社会福祉現象に対して社会学の領域から接近して、これを分析する、その視角を養うことを目的として本年度はとくに、諸外国の研究動向として、Ramesh Mishra の Society and Social Policy から「福祉への接近」と「社会構造と福祉」を学ぶことにしたい。

〔教科書〕 Ramesh Mishra, Society and Social Policy, Macmillan Press, London, 1981

社会福祉実習Ⅱ

原田信一

社会福祉実習は、理論と実践、思考と体験とを有機的に結びつける実践学習である。そこで、これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場にてらし合わせながら、実際の福祉従事体験等を通してそこにいかなる実体、つまり相反や矛盾面があるかなどの現実認識をふかめると同時に、福祉の本質を学びとってもらう。一方、大学においては、激しく流動する福祉ニーズに即応できる専従者として必要な専門的知識の指導をおこなうと共に、公私にわたる諸福祉施設、各機関の協力を仰ぎ、連繫をとりながら即戦力者養成をめざしすすめてゆく。したがって、将来、福祉職を目指す学生の受講を歓迎する。

〔教科書・参考書〕 随時紹介し、指導してゆく。

障害児教育方法論

井田範美

障害児教育は、第二次大戦後、学校、施設が増大したが、児童・生徒の実態ならびに教育、社会のニーズの変

化に伴って質的な変容をとげながら今日に経緯している。

今日、障害児教育の対象は軽度から重度の障害を包含し、教育の方法は多様化している。

本講では障害児教育の一視角として、養護学校・特殊学級における知能障害児の教育方法を中心に、学習の指導形態、授業の方法、治療的指導法、評価法、早期指導の概要を講述すると共に、福祉的アプローチについても論述する。

〔教科書〕 井田範美『知能障害児の指導』（明治図書） ¥2,700

〔参考書〕 原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社） ¥2,800

障害児教育原論

井田範美

障害児教育の理念、目標、内容について健常児の教育と比較対照しながら論述する。しかし、障害児教育は障害種別により成立基盤、発展の過程は異なる。

そこで、障害児全般にわたる基本的知識として各障害（視覚障害、聴覚障害、運動障害、病弱虚弱、知能障害、情緒障害、等々）に関する諸概念ならびに教育の概要について講述する。さらに障害児教育の今日の問題として、学校（教育現場）と施設（福祉現場）の両面から障害児教育における諸問題について論述する。

〔参考書〕 佐藤泰正編『障害児教育概説』（学芸図書） ¥1,300

原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社） ¥2,800

心理学史

萩野源一

心理学の歴史について、特に科学心理学の成立とその発展に重点をおいて論述し、さらに現代心理学の動向に関して述べる。

〔参考書〕 (1) 今田 恵『心理学史』（岩波書店）
(2) 講座心理学 1. 末永俊郎編『歴史と動向』（東京大学出版会）

心理統計学

篠原英壽

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的、処理方法の心理学への適用とその限界、心理学において工夫された測

定法処理方法などについて説明したい。

〔参考書〕 随時示す。

心理学実験（実習）

篠原英壽・谷口泰富

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、結果の処理法等を実習を通して理解してもらう。さらに、実験レポートの作成について指導する。

〔教科書〕 依田新監修『基礎実験』（心理学実験演習Ⅰ）（金子書房）

心理学研究法

堀 耕 治

研究の意図やテーマがいかにか立派なものであろうと、研究の「やり方」がまずければ、科学的には価値のない結果しか生まれない。本講義では、科学としての心理学が方法論の上で満たさねばならない条件を明らかにし、具体的な研究例を通して、実験や調査をどのように企画・実行すべきであるかを論じる。

基礎心理学Ⅰ（人格）

谷 口 泰 富

人格（パーソナリティ）とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論の紹介、研究法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛りこんでゆく予定である。

〔教科書〕 随時紹介する。

基礎心理学Ⅱ（発達）

篠 原 英 壽

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から生年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E. H. エリクソンの精神分析学的理論、及び、J. ピアジェの認知理論を中心に取上げたい。

〔参考書〕 随時指示する。

基礎心理学Ⅳ（社会）

水 原 泰 介

社会心理学研究における理論と実験の役割を解説することにより、社会心理学がどのような学問であるかの理解を深める。

〔参考書〕 水原泰介『社会心理学入門』（第2版）（東大出版会）

基礎心理学Ⅴ（臨床）

中 村 昭 之

1. 臨床心理学人格理論（症状形成と治療）

- (1) 総論
- (2) カウンセリング
- (3) 精神分析
- (4) 森田療法
- (5) 行動療法
- (6) その他

心理学研究Ⅰ（実習）

萩 野 源 一

具体的実験例を自ら閱讀しそれに関する簡単な実験を行うことにより、心理学の実験法を修得することを目的とする。本年度は主として認知心理学に関するものを取りあげる。

〔参考書〕 A. Bennetl, etal. Workshops in Cognitrive Processes, Routledge & Keigan Paul, 1981

心理学研究Ⅱ（実習）

水 原 泰 介

社会心理学の代表的な実験について、計画、実験、結果処理、研究報告書作成の実習をおこなう。

心理学研究Ⅲ（実習）

中 村 昭 之

臨床心理学の各種理論の講義、各種文献についての論議、人格テストの実習などを行う。

心理学研究Ⅳ（実習）

篠原英壽

心理学研究Ⅳは、これまで開講されていた実験実習（上級）が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学の内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため、装置及び被験者等の関係上、実験的内容を実習的に行うことには問題もある。

そこで本年は、欧文の専門書及びジャーナルを精読し、その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し、追試可能なものを選択し、その方法に準拠して実験等を行いたい。

なお主たる参考書は下記のもので、そのコピーを用いる。
〔参考書〕

Readings in Child Development & Personality: Edited by P. H. Mussen, J. J. Conger, J. Kagan. Harper & Row, 1965

心理学研究Ⅵ（実習）

谷口泰富

ここでは主に、生理学的指標を用いた種々の測定を行う。実習内容については、初めの時間に説明する。

〔参考書〕 随時紹介する。

生理心理学

谷口泰富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため、本講は、心理学と生理学の隣接するところから出発し、意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する。

児童心理学

天野珠子

児童心理学とは、乳児期・幼児期・児童期の精神発達の諸特性を探ることである。成人は誰でも児童期を経過しているため、児童の行動や心理を理解していると思いがちだが、その実、一方的に先入観による解釈が多い。

正しい児童理解は、大人子どもの関係を円滑にするため、又教育やしつけのためにも必要なことである。豊富な具体例を紹介しながら、児童心理学の今日の進歩の水準にたって、概要を捉えていきたい。

〔参考書〕 『児童心理学』（東京大学出版会）
『新版児童心理学』（学芸図書）

産業心理学

大塚秀治

産業心理学は様々な産業場面での心理学的諸問題を扱う応用心理学の一分野であり、心理学の全ての分野と密接な関係をもっている。ここではコンピュータに代表される人間-機械系のあり方を中心に (1)作業とは何か (2)作業環境と作業者の心理 (3)ヒューマン・エラーは何故生じるか、等を講義し時間が許せば、航空機事故の事例研究や、簡単な実験を行い理解を深める。

〔教科書〕 開講時に示す。

〔参考書〕 『心理学8〔産業心理〕』（有斐閣双書）、
『情報処理心理学』（サイエンス）、
『産業心理学』（恒星社厚生閣）

グループ・ダイナミックス

坂原明

社会生活において、有機体はそれぞれ様々な集団に属しているが、グループ・ダイナミックスは、そのような集団の力動的性質および集団の発生・展開・消滅を含む集団過程の法則を求めることを目的としている。講義では、特に社会生活に対して、従来の研究がどのような応用可能性を持っているかということを日常的な例を引きながら解説してゆきたい。

〔教科書〕 末永俊郎編『講座社会心理学第2巻 集団行動』（東京大学出版会）

〔参考書〕 三隅二不二・佐々木薫訳編『グループダイナミックスⅠ カートライトザンダー』（誠信書房）

カウンセリング

鈴木順一

カウンセリングにおけるPerson Centered Approachを確立したCarl Rogersの実践する「人間中心の教育」を現実化したい。カウンセリング・ロールプレイ、サイコ・ドラマ、ゲシュタルト・ワーク、エンカウンター等の体験学習を通じて、お互いのパーソナリティの理解と開発（自己実現）をめざす。

〔教科書〕 『暮らしの中のカウンセリング』（有斐閣）
『カウンセリングの理論』（誠信書房）

〔参考書〕 『カウンセリング』（芸林書房）『新訂カウンセリング』『エンカウンター』（以上 誠信書房）

『人間尊重の心理学』『エンカウンター・グループ』（以上創元社）

心理検査法

森山（梅田）敏文

心理学の研究を進めていく場合のひとつの手段として、心理検査があるというのはいままでもない。狭義には、各種の質問紙法、投影法などがあり、広義に考えていくと、さまざまな実験器具を用いた方法や生理学的な測定法も含まれると思われる。講義では、前者に焦点をあて、さらに研究法としてよりも臨床の場面での実践に役立つような検査法について言及していきたい。この場合、各種検査法を実際に体験してもらい、そのような体験を基本にしながら、必要に応じてレポート作成をしてもらったり、ディスカッションなどができればよいのではないかと考えている。

〔教科書〕 必要に応じて紹介していく。

〔参考書〕 必要に応じて紹介していく。

禅心理学

脇本平也

禅心理学という用語には二重の意味がある。一つは、禅を対象とする心理学の立場からの研究である。もう一つは、禅仏教がもっている人間心理に関する知見である。前者を西洋に出差した宗教心理学との関連において、後者を東洋における伝統的仏教思想との関連において、それぞれに考察し、さらに両者の関係について考えてみたい。

〔参考書〕 適時指示する。

心理学特講Ⅰ

佐々木 雄 二

自律訓練法は、神経症や心身症の治療法として、あるいは教育効果を高めたり創造性を開発するための技法として、広く用いられるようになった。本講では、このような自律訓練法の理論と方法を学ぶ。

〔参考書〕 佐々木雄二『自律訓練法の実際』（創元社）

心理学特講Ⅱ

佐々木 宏 幹

宗教人類学において、「心理学・心理主義的」理論と呼ばれるものを若干取り上げて説明するとともに、私が

調査・研究した東南アジア華人社会の宗教について、具体的資料を紹介しつつ、その心理的側面を考察したい。

〔教科書〕 エヴァンズ・プリチャード著・佐々木、大森訳『宗教人類学の基礎理論』（世界書院）

心理学特講Ⅲ

古 賀 義 亮

心理学実習及び実験に必要なデータ等のコンピュータ処理の知識と手法について教育する。コンピュータ室においてプログラミング言語BASICを用いて実習を中心に実施する。2～3学年の受講が望ましい。

〔参考書〕 『マイコン・ソフトウェア入門』講談社ブルーバックス

精神医学

柴 田 出

現代の厳しい現実社会で生きている現代人は、多くのストレスにさらされ、心を病む人にも少くない。しかし、現実の組織や集団に所属するからといって、全ての人が心の病いにおかされるわけではない。このように考えると、個人を取り囲む組織の問題だけに帰すわけにはいかず、個人の自我の成熟度も大きく関わっていることがわかる。演者はこのような観点に立って、個人の心の発達過程を臨床例をあげながら述べていきたい。

とくに、コドモからオトナへの移行過程の時期であり、コドモとオトナが共存している青年期を中心に述べていくつもりでいる。

〔参考書〕 『こころ自己分析』（有斐閣）¥1,300

社会政策

光 岡 博 美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕 教場で指示する。

民法

青山尚史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕 教場にて指示する。

労働法

平岡一實

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕 平岡一實『改訂 労働法の基本問題』
(八千代出版)

行政法

鶏徳啓登

現代国家は、一般に福祉国家又は文化国家といわれるようになり社会問題も多くなっている。そして、例えば昨年の指紋押捺問題のような社会問題では、必ずといってよいほど行政のあり方が問われるのである。このような問題を考える場合に、行政に関する法令はどんなものであり、行政はどう行われるのか、ということを経理的側面から考えてみることも、社会問題を客観的に考慮できるようにするための1つの方法であると思われる。

その意味で、「行政法」とはどのような法律であるのかを知っておくことは、公務員をめざす学生ばかりでなく、一般の学生にも、今後増々要求されてくるようになるだろうと思われる。

〔教科書〕 『行政法の話』(第1法規) ¥1,800
〔参考書〕 教場にて説明致します。

経済原論

浅野克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。

- I ミクロ経済の理論
1. 消費者行動の理論 2. 企業行動の理論
3. 価格決定

II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念 2. 国民所得の決定 3. 経済の変動と成長

III 現代経済学の課題と方向

IV 経済学の生成過程

〔教科書・参考書〕 最初の授業で説明します。

青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年指導の研究』(全防連)
¥1,200

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座の履修要項」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
博物館学講座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社会福祉主事講座	全 学 部（59年度入学生より適用）
社会教育主事講座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部

